

(12) 外国語

①現行学習指導要領の成果と課題を踏まえた外国語活動、外国語科の目標の在り方

i) 現行学習指導要領の成果と課題

- グローバル化が急速に進展する中で、外国語によるコミュニケーション能力⁴⁹は、これまでのように一部の業種や職種だけでなく、生涯にわたる様々な場面で必要とされることが想定され、その能力の向上が課題となっている。
- 現行の学習指導要領は、外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度や、情報や考えなどを理解したり伝えたりする力の育成を目標として掲げ、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」などを総合的に育成することをねらいとして改訂され、様々な取組を通じて充実が図られてきた。
- 一方で、指導改善による成果が認められるものの、児童生徒の学習意欲に関わる課題や、学校種間の接続が十分とは言えず、進級や進学をした後に、それまでの学習内容や指導方法等を発展的に生かすことができないといった状況も見られている。
- 中・高等学校においては、文法・語彙等の知識がどれだけ身に付いたかという点に重点が置かれた授業が行われ、外国語によるコミュニケーション能力の育成を意識した取組、特に「話すこと」及び「書くこと」などの言語活動が十分に行われていないことや、習得した知識や経験を生かし、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて適切に表現することなどに課題がある。

ii) 課題を踏まえた外国語活動、外国語科の目標の在り方

- これらの課題を踏まえ、特に、他者とのコミュニケーション（対話や議論等）の基盤を形成する観点を、外国語教育を通じて育成を目指す資質・能力全体を貫く軸として重視しつつ、他の側面（創造的思考、感性・情緒等）からも育成を目指す資質・能力が明確となるよう整理することを通じて、更に外国語教育における「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の三つの資質・能力を育成することを目標として改善を図る。（別添13-1を参照）

⁴⁹ コミュニケーション能力については様々な考え方があるが、文部科学省の有識者会議の報告（コミュニケーション教育推進会議審議経過報告「子どもたちのコミュニケーション能力を育むために」平成23年8月29日）においては「いろいろな価値観や背景をもつ人々による集団において、相互関係を深め、共感しながら、人間関係やチームワークを形成し、正解のない課題や経験したことのない問題について、対話をして情報を共有し、自ら深く考え、相互に考えを伝え、深め合いつつ、合意形成・課題解決する能力」と定義している。本ワーキンググループにおける議論においては、こうした定義も踏まえ、外国語教育における特質に配慮しながら、外国語によるコミュニケーション能力について、外国語やその背景にある文化に対する理解を深め、他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて、外国語で情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝え合ったりすることができる能力として整理している。

併せて、後述iii)の「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせながら、外国語教育において求められている資質・能力を育むために必要な教科等目標を設定する。(別添13-2を参照)

(育成を目指す資質・能力と小・中・高等学校を通じた指標形式の目標の設定)

- 前述のように、外国語教育における「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の三つの資質・能力を明確にした上で、前述のような課題を踏まえ、①各学校段階の学びを接続させるとともに、②「外国語を使って何が出来るようになるか」を明確にするという観点から目標の改善・充実を図る。
- 外国語の学習においては、語彙や文法等の個別の知識がどれだけ身に付いたかに主眼を置くのではなく、児童生徒の学びの過程全体を通じて、知識・技能が、実際のコミュニケーションにおいて活用され、思考・判断・表現することを繰り返すことを通じて獲得され、学習内容の理解が深まるなど資質・能力が相互に関係し合いながら育成される必要がある。
- このため、それらの育成を目指す力について、前述のような課題を踏まえつつ、国際的な基準であるCEFR⁵⁰などを参考に、外国語学習の特性を踏まえて「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力等」を一体的に育成し、小・中・高等学校で一貫した目標を実現するため、そこに至る段階を示すものとして段階的に実現する指標形式の目標を設定する。
- CEFRにおいては、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」の4技能ではなく、外国語の学習等のための「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと(やりとり: interaction)」、「話すこと(発表: production)」、「書くこと」という5つの領域において、単に、知識・技能だけが示されているのではなく、知識・技能を活用して思考したり表現したりする言語能力が示されている⁵¹。このことを踏まえ、こ

⁵⁰ 国際的な基準: CEFR (Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment 外国語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ共通参照枠) は、語学シラバスやカリキュラムの手引きの作成、学習指導教材の編集、外国語運用能力の評価のために、透明性が高く、包括的な基盤を提供するものとして、20年以上にわたる研究を経て、2001年に欧州評議会が発表した。国により、CEFRの「共通参照レベル」が、初等教育、中等教育を通じた目標として適用されたり、欧州域内の言語能力に関する調査を実施するに当たって用いられたりするなどしている。CEFRは、学習者、教授する者、評価者が共有することによって、外国語の熟達度を同一の基準で判断しながら「学び、教え、評価できるよう」開発されたもの。「話すこと」のやりとり(interaction)は、少なくとも2人以上の個人が言葉のやりとりをする。その際、産出的活動と受容的活動が交互に行われ、口頭のコミュニケーションの場合は同時に行われることもあり、対話者が同時に話し、聞くだけでなく、聞き手は話し手の話を先回りして予測し、その間に答えを準備しているものであるなど、やりとりは言語使用と言語学習の中でも大きな重要性が認められ、コミュニケーションにおける中核的役割を果たしているとされている。

⁵¹ ①CEFRの文書において人間が言語を用いて行うタスク(人間の行為全般をCEFRではタスクと言う。)はreception(受容)、interaction(やりとり)、production(産出)の3領域に分かれており、それらが総合的に「コミュニケーション活動(communicative activities)」と呼ばれている(CEFRオリジナル文書2.1.3)。②自己評価表(self-assessment grid)の形式で、Listening、Reading、Spoken interaction、Spoken production、Writingの5つのタスクは、コミュニケーション能力の社会言語的側面、語用論的側面を含んだ多面的なものであり、それらの複雑な横軸の側面についてはCEFR文書Chapter 4、5で解説されており、多層的な「領域」と考えられており、③複雑な横軸の側面として具体的にCEFRのCAN-DO形式の目標で示されている内容はcommunicative competence(コミュニケーション

れまで「4技能」と称されることが多かった、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」については、国の指標形式の目標において5つの領域として示すこととする。

- 国が定める指標形式の目標については、外国語で聞いたり読んだりして得た知識や情報、考えなどを的確に理解したり、それらを活用して適切に表現し伝え合ったりすることで育成される「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力等」について、外国語教育の目標に沿って、高等学校卒業時において求められる資質・能力を明確にした上で設定する。このため、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと（やりとり：interaction）」、「話すこと（発表 production）」、「書くこと」の5つの領域ごとに小学校中学年段階から児童生徒の発達の段階に応じて「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力等」を設定するとともに、これらの複数を組み合わせて効果的に活用する統合的な言語活動を一層重視した目標とする。（別添13-3を参照）
- また、育成を目指す資質・能力の三つの柱の「学びに向かう力・人間性等」は、児童生徒が言語活動に主体的に取り組むことが外国語によるコミュニケーション能力を身に付ける上で不可欠であるため、極めて重要な観点である。「知識・技能」を実際のコミュニケーションの場面において活用し、考えを形成・深化させ、話したり書いたりして表現することを繰り返すことで、児童生徒に自信が生まれ、主体的に学習に取り組む態度が一層向上するため、「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力等」と「学びに向かう力・人間性等」は不可分に結び付いている。児童生徒が興味をもって取り組むことができる言語活動を易しいものから段階的に取り入れたり、自己表現活動の工夫をしたりするなど、様々な手立てを通じて児童生徒の「主体的に学習に取り組む態度」の高まりを目指した指導をすることが大切である。
- 各学校においては、国が学習指導要領に定める外国語の指標形式の目標を踏まえ、更に具体的に各校の学習到達目標を設定する。その際、個別の知識がどれだけ身に付いたかに主眼を置くのではなく、「知識・技能」を実際のコミュニケーションにおいて活用し、外国語で情報や自分の考えなどを表現し伝え合うことで、外国語教育の資質・能力の育成が図られるよう、学習内容等を設定することが求められる。

iii) 外国語活動、外国語科における「見方・考え方」

- 他者とコミュニケーションを行う力を育成する観点から、社会や世界とのかかわりの中で、外国語やその背景にある文化の多様性を尊重し、外国語を聞いたり読んだりすることを通じて様々な事象等を捉え、情報や自分の考えなどを外国語で話したり書いたり

ン能力)を示しており、それらは、linguistic competence(従来の語彙・文法などの知識と技能)、sociolinguistic competence (社会的文脈などを考慮してことばを使える力)、pragmatic competence(場面・状況・相手などを考慮してことばを使える力)と定義されている。④CEFRで目指している姿は「自律的社会的成員 (autonomous social agent)」であり、自ら学習を管理できる「生きる力」を体現する社会的成員としての個人であり、この点からも学習指導要領の目標とCEFRは非常に近い目標が掲げられていると考えられている。

して表現して伝え合うなどの一連の学習過程を経て、子供たちの発達段階に応じた「見方・考え方」が成長することを重視し、整理することが重要である。

- 外国語教育において育成を目指す資質・能力を踏まえ、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」は、「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて、情報や自分の考えなどを形成、整理、再構築すること」と整理する。

②具体的な改善事項

i) 教育課程の示し方の改善

ア 資質・能力を育成する学びの過程についての考え方

- 「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせる学習過程に改善するため、育成を目指す「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の三つの資質・能力を確実に身に付けられるように改善・充実を図る必要がある。
- 外国語教育における学習過程では、児童生徒が、①設定されたコミュニケーションの目的・場面・状況等を理解し設定する、②目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し、コミュニケーションの見通しを立てる、③対話的な学びとなる目的達成のため、具体的なコミュニケーションを行う、④言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行うというプロセスを経ることで、学んだことの意味付けを行ったり、既得の知識や経験と、新たに得られた知識を言語活動へつなげ、思考力・判断力・表現力等を高めていくことが大切になる。

イ 指導内容の示し方の改善

- 外国語教育において育成を目指す三つの資質・能力を踏まえ、小・中・高等学校を通じた、指標形式の目標（前述の5つの領域）、指導内容等について体系的に構造を整理する。この構造の中で、外国語教育において「主体的・対話的で深い学び」を推進する学習過程を繰り返し経るような改善・充実が図られる必要がある。

ii) 教育内容の改善・充実

ア 小学校の外国語教育における改善・充実

- これまでの成果と課題を踏まえて、中学年から「聞くこと」及び「話すこと」を中心とした外国語活動を通じて外国語に慣れ親しみ、外国語学習への動機付けを高めた上で、高学年から発達段階に応じて段階的に「読むこと」「書くこと」を加え、総合的・系統的に扱う学習を行うことが求められる。その際、これまでの課題に対応するため、新たに①アルファベットの文字や単語などの認識、②国語と英語の音声の違いやそれぞれの

特徴への気付き、③語順の違いなど文構造への気付きなど、言語能力向上の観点から言葉の仕組みの理解などを促す指導を教科として行うために必要な時間を確保することが必要である⁵²（別添13-4）。

- このような方向性を目指し、小学校高学年において、「聞くこと」、「話すこと」の活動に加え、「読むこと」、「書くこと」を含めた言語活動を展開し定着を図り、教科として系統的な指導を行うためには、年間70単位時間程度の時数が必要である。また、中学年における外国語活動については、従来外国語活動と同様に年間35単位時間程度の時数が必要である⁵³。

イ 中学校の外国語教育における改善・充実

- 小学校で学んだ語彙や表現などの学習内容については、中学校の言語活動で、意味のある文脈の中でコミュニケーションを通して繰り返し触れることができるよう、様々な言語活動を工夫し、言語の運用能力を高めることが必要である。
- また、中学校では、生徒にとって身近なコミュニケーションの場面を設定した上で、学習した語彙・表現などを実際に活用する活動を充実させるとともに、高校との接続の観点から、外国語で授業を行うことを基本とするなど指導の改善を図る。
- 併せて、中学校では新たに「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」を測定する全国学力・学習状況調査の実施⁵⁴により、具体的な指導改善につながるPDCAサイクルを確立することが重要である。

ウ 高等学校における科目構成の見直し

- これまでの課題、高校生の多様化に対応するため、高等学校卒業段階で求められる「外国語を通じて、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりすることができる力」（必修科目でCEFRのA2相当、選択科目で同B1相当を想定）を育成するため「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」を総合的に扱う科目として「英語コミュニケーション（仮称）」を設定する。
- 中学校で学んだことを実際のコミュニケーションにおいて運用する力を十分に身に付けていないといった課題のある生徒も含めた高校生の多様性を踏まえ、外国語で授業

⁵² 外国語教育の改善・充実については、「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について（諮問）」においても、文部科学省「英語教育の在り方に関する有識者会議」（平成26年9月26日）においてまとめられた提言を踏まえつつ検討することとされている。提言においては、「小・中・高等学校を通じた英語教育強化事業」等の先行した取組の検証を踏まえた外国語教育の課題や方向性について詳細がまとめられている。

⁵³ これらの効果的な教育課程の編成の在り方については、第2部 1.（2）の「④ 各学校における弾力的な時間割編成」を参照。

⁵⁴ 文部科学省「全国的な学力調査に関する専門家会議」のもとに設置された「英語調査の検討に関するワーキンググループ」において、平成28年6月には「全国学力・学習状況調査における中学校の英語の実施に関する中間まとめ」がまとめられている。

を行うことを基本とすることが可能な科目を見直す必要がある。このため、必履修科目（特に学習の初期段階）において、中学校の学び直しの要素を入れることとする。

- 外国語科の授業において言語活動の比重が低い現状を踏まえ、学習指導要領に沿って設定された指標形式の目標を実現するため、いかに言語活動を改善・充実していくかといった観点から科目の見直しを行う。このため、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」の総合型の科目（必履修科目を含む）を核とし、発信能力の育成を更に強化するための科目として「論理・表現（仮称）」（「発表、討論・議論、交渉」などにおいて、聞いたり読んだりしたことを活用して話したり書いたりする統合型の言語活動が中心）を設定する。併せて、留学や進学などの目的に応じて高い英語力を目指す高校生もいるといった多様性を踏まえ、専門教科の科目構成を見直すとともに、学校設定科目などで対応できるようにする。（別添13-5を参照）
- また、高等学校においては、生徒や学校の多様なニーズを踏まえ、スーパーグローバルハイスクール等の成果を参考にしつつ、グローバルな視点で他教科等での学習内容等と関連付けて、外国語を用いて課題解決を図る力などを育成するための言語活動の改善・充実を図る必要がある。

（英語以外の外国語教育の改善・充実）

- グローバル化が進展する中、日本の子供たちや若者に多様な外国語を学ぶ機会を提供することは、言語やその背景にある文化の多様性を維持・促進し、他の国や文化の尊重につながるため、英語以外の外国語教育の必要性を更に明確にするとともに、学習指導要領の改訂に向けて、外国語教育における指標形式の目標設定を踏まえたカリキュラム研究、研修、教材開発などの取組について支援することが必要である。

iii) 学習・指導の改善充実や教育環境の充実等

ア 「主体的・対話的で深い学び」の実現

- 「主体的・対話的で深い学び」の実現とは、学校教育における質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けるようにすることである。
- 外国語教育においては、質の高い学びに向けて、学びの過程を、相互に関連を図りつつ、改善・充実を図ることが必要である。そのような過程で外国語によるコミュニケーションを通じて、自分の思いや考えが深まったり更新されたりすることを児童生徒が認識し、自信を持つことができるような学習活動を設けることが重要である。
- ① 「主体的な学び」の過程では、外国語を学ぶことに興味や関心を持ち、どのように社会・世界と関わり、生涯にわたってどのように学んだことを生かそうとするかについて、見通しを持って粘り強く取り組むとともに、自分の意見や考えを発信したり評価したりするために、自らの学習のまとめを振り返り、次の学習につなげることが重要

である。このため、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等を明確に設定し、学習の見通しを立てたり振り返ったりする場面を設けるとともに、発達の段階に応じて、身の回りのことから社会や世界との関わりを重視した題材を設定することなどが考えられる。

②「対話的な学び」の過程においては、他者を尊重した対話的な学びの中で、社会や世界との関わりを通じて情報や考えなどを伝え合う言語活動の改善・充実を図ることが重要である。このため、言語の果たす役割として他者とのコミュニケーション（対話や議論等）の基盤を形成する観点を資質・能力全体を貫く軸として重視しつつ、コミュニケーションを行う目的、場面、状況に応じて、他者を尊重しながら対話が図られるような言語活動を行う学習場面を計画的に設けることなどが考えられる。

③「深い学び」の過程については、言語の働きや役割に関する理解、外国語の音声、語彙・表現、文法の知識や、それらの知識を「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」、「書くこと」において実際のコミュニケーションで運用する力を習得し、実際に活用して、情報や自分の考えなどを書いたり話したりする中で、外国語教育において育まれる「見方・考え方」を働かせて思考・判断・表現し、学習内容を深く理解し、学習への動機付け等がされる「深い学び」につながり、資質・能力の三つの柱に示す力が総合的に活用・発揮されるようにする。このため、授業において、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じた言語活動を効果的に設計することが重要である。

イ 教材や教育環境の充実

(教材の在り方)

- 小学校においては、次期学習指導要領の趣旨を踏まえた中学年向けの外国語活動の教材や高学年向けの教科書を作成する際に参考となるよう、平成28年度中に、平成26・27年度に開発した小学校中学年・高学年向けの補助教材の検証を行う必要がある。また、その検証結果を生かして、中学年の外国語活動の導入や高学年での教科化に対応した教材を平成29年度にかけて開発し、平成30年度には先行実施を行う小学校で活用できるよう作成・配布する必要がある。
- 中・高等学校においては、教科書・教材の課題として、説明・発表・討論等を通じて「思考力・判断力・表現力等」を育成するような言語活動の展開が十分に意識されていないと思われるものも見られる。そのため、どのような力を身に付けるべきであるかということを念頭におきつつ、学習指導要領における指標形式の目標設定などを踏まえた教材とする必要がある。また、言語活動の比重が低い現状から、学習指導要領の内容の実現のために言語活動の改善・充実に資する生徒が発信したいと思える題材とする視点が必要である。

(指導体制、教員養成・研修等)

- 外国語教育に関する教員養成、教員研修及び教材開発に関する条件整備、小学校の中・高学年それぞれの課題に応じた指導体制の整備が不可欠である。
- 小学校においては、校長がリーダーシップを発揮し、学校全体の取組方針を明確にした上で、全教員の共通理解を図りながら、中核教員を中心とした校内の英語教育に係る指導体制の強化に取り組むことが重要である。また、①効果的な教材開発とともに、②必要な指導者の確保を含め、地域の実情に応じた柔軟かつ効果的な指導を行う体制づくりが不可欠である。
- 小・中・高等学校の一貫した外国語教育のP D C Aサイクル⁵⁵を通じて、「英語教育推進リーダー」や英語教育担当指導主事等が中心となって、小・中・高等学校の連携による研修や、教育委員会と大学・外部専門機関との連携による研修などを実施するとともに、各学校を訪問し、指導計画の作成や学習到達目標を活用した授業改善などについて指導・助言を行うことなどが期待される。
- 小・中・高等学校のコア・カリキュラム開発・普及による教職課程の改善・充実、高学年の教科化に向けて小学校の現職教員が外国語の指導に関する専門性を高めることができるよう、小中の学びの円滑な接続を図るために必要な内容を加えた認定講習等の開設支援及び外部人材の活用支援等により、専門性を一層重視した指導体制を構築する。
- 児童生徒が生きた外国語に触れる機会を一層充実するため、特別免許状の活用も含め、教員や外国語指導助手等としての外部人材の受け入れを一層推進する。併せて、外国語が堪能な地域人材や外国語担当教員の退職者等を非常勤講師として活用するための方策も講じる。

⁵⁵ 平成28年度より、都道府県ごとに「英語教育改善プラン」の策定・公表を行い、生徒・教員の英語力等の目標設定・管理の下、必要な研修等を実施し、P D C Aサイクルの構築を推進している。

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
<p>○外国語の特徴やきまりに関する理解 ・音声、語彙・表現、文法の知識</p> <p>○言語の働き、役割に関する理解 (例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションを円滑にする (繰り返す、言い換える 等) ・気持ちを伝える (感謝する、謝る 等) <p>25. 情報を伝える (説明する、理由を述べる 等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考えや意図を伝える (賛成・反対する、主張する 等) ・相手の行動を促す (依頼する、許可する 等) <p>※各言語活動に応じた言語の働き</p> <p>○外国語の音声、語彙・表現、文法の知識を、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」を活用した実際のコミュニケーションにおいて運用する技能 など</p>	<p>◆外国語で、情報や考えなどを表現し伝え合う力</p> <p>○コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて、幅広い話題について、外国語を聞いたり読んだりして情報や考えなどを的確に理解するコミュニケーション力</p> <p>○コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて、幅広い話題について、外国語を話したり書いたりして情報や考えなどを適切に表現するコミュニケーション力</p> <p>○外国語で聞いたり読んだりしたりして情報を活用して、外国語で話したり書いたりして情報や考えなどの概要・詳細・意図を伝え合うコミュニケーション力</p> <p>◆考えの形成、整理</p> <p>○目的等に応じて、外国語の情報を選択したり抽出したりする力</p> <p>○知識や得た情報を活用して、自分の意見や考えを外国語で形成・整理・再構築する力</p> <p>○形成・整理・再構築した自分の意見や考えを、実際に外国語で表現する力 など</p>	<p>○外国語を通じて、言語やその背景にある文化を尊重しようとする態度</p> <p>○自律的・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度</p> <p>○他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたりして情報を活用して、情報や考えなどを外国語で話したり書いたりして表現しようとする態度</p> <p>○外国語を通じて積極的に人や社会と関わり、自己を表現するとともに他者を理解するなど互いの存在について理解を深め、尊重しようとする態度 など</p>

【高等学校】

- ◎外国語の見方・考え方を働かせ、コミュニケーションの目的を理解し、見通しを持って目的を実現するための聞くこと、話すこと、読むこと、書くことによる総合的な言語活動を行うことを通して、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりすることができる資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。
- ①外国語を通じて、言語の働きや役割などを理解し、外国語の音声、語彙・表現、文法を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことを用いた実際のコミュニケーションの場面において活用できる技能を身に付けるようにする。
- ②外国語でコミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて、社会や世界、他者との関わりの中での幅広い話題について、情報や考えなどの概要・詳細・意図を的確に理解したり、それらを活用して適切に表現し伝え合ったりすることができる力を養う。
- ③外国語やその背景にある文化の多様性を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、自律的・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
- 目標を踏まえた具体的な指標形式の目標を提示

【中学校】

- ◎外国語の見方・考え方を働かせ、コミュニケーションの目的を理解し、見通しを持って目的を実現するための聞くこと、話すこと、読むこと、書くことによる総合的な言語活動を行うことを通して、簡単な情報や考えなどを外国語で理解したり表現したり伝え合ったりすることができる資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。
- ①外国語を通じて、言語の働きや役割などを理解し、外国語の音声、語彙・表現、文法を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことを用いた実際のコミュニケーションの場面において活用できる基本的な技能を身に付けるようにする。
- ◎外国語でコミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて、日常的・社会的で具体的な話題について理解したり、簡単な情報や考えなどを交換するなどして伝え合ったりすることができる力を養う。
- ③外国語やその背景にある文化の多様性を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
- 目標を踏まえた具体的な指標形式の目標を提示

【小学校高学年】

- ◎外国語の見方・考え方を働かせ、コミュニケーションの目的を理解し、見通しを持って目的を実現するための言語活動を通して、聞いたり話したりするとともに、読んだり書いたりすることに慣れ親しませ、コミュニケーション能力の基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。
- ①外国語を通じて、言語の働きや役割などを理解し、読んだり書いたりして外国語の文字、単語、語順などに慣れ親しませるとともに、外国語の音声、語彙・表現を聞いたり話したりする実際のコミュニケーションの場面において活用できる基本的な技能を身に付けるようにする。
- ②外国語を通じて、身近で簡単なことについて、文字、単語などを読んだり語順に気付きながら書いたりするとともに、聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う基礎的な力を養う。
- ③外国語やその背景にある文化の多様性を尊重し、相手に配慮しながら外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
- 目標を踏まえた具体的な指標形式の目標を提示

【小学校中学年】

- ◎外国語の見方・考え方を働かせ、コミュニケーションの目的を理解し、見通しを持って目的を実現するための活動を通して、聞いたり話したりすることに慣れ親しませ、コミュニケーション能力の素地となる資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。
- ①外国語を用いた体験的な活動を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語の音声や語順等の違い等に気付いた上で、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませるようにする。
- ②外国語を通じて、身近で簡単なことについて、聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。
- ③外国語を通じて、言語やその背景にある文化の多様性を尊重し、相手に配慮しながら外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
- 目標を踏まえた具体的な指標形式の目標を提示

校種	CEFR レベル	聞くこと	読むこと	話すこと (やり取り)	話すこと (発表)	書くこと
高等学校	B2	<ul style="list-style-type: none"> ○母語話者同士による多様な話題の長い会話を聞いて、概要や要点を理解できるようにする。 ○身近な話題に関する複雑な流れの議論を聞いて、話の展開を理解できるようにする。 ○自然な速さで話される時事問題や社会問題に関する長い説明を聞いて、概要や要点を理解できるようにする。 ○ある程度知識のある社会問題や時事問題に関するラジオ番組やテレビ番組を視聴して、概要や要点を理解することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○関心のある分野の記事や資料から、必要な情報を読み取ることができるようにする。 ○興味のある現代小説や随筆を読んで、概要を理解することができるようにする。 ○時事問題や社会問題に関する記事やレポート、資料を読んで、概要や要点、筆者の姿勢や視点を理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○幅広い話題に関する会話に参加し、情報や自分の意見などを適切かつ流暢に表現することができるようにする。 ○知識のある時事問題や社会問題について、幅広い表現を用いて議論することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○幅広い話題について、即興で、説明したり自分の考えや気持ちなどを話したりすることができるようにする。 ○幅広い分野のテーマについて、明確かつ詳細な説明をすることができる。 ○多様な考え方ができる時事問題や社会問題について、様々な見方の長所・短所を示すとともに、自分の意見を幅広い表現を用いて論理的に説明することができるようにする。 ○聴衆の反応に応じて、発表の内容や方法を調整することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○関心のある分野のテーマについて、事実や情報などを明確且つ詳細に伝える説明文を書くことができるようにする。 ○時事問題や社会問題など幅広い話題に関する記事や資料を読んで、その概要や要点を書きまとめることができるようにする。 ○時事問題や社会問題など幅広い話題について、得た情報を活用しながら、自分の意見やその理由を論理的に書くことができるようにする。 ○Eメール、エッセイ、レポートなどをそれぞれの用途に合った文体で書くことができるようにする。
	B1	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な話題や知識のある社会的な話題に関する短い会話を聞いて、概要や要点を理解することができるようにする。 ○比較的ゆっくりに話されれば、時事問題や社会問題に関する短い平易な説明を聞いて、要点を理解することができるようにする。 ○比較的ゆっくりに話されれば、馴染みのある話題を扱ったラジオ番組やテレビ番組を視聴して、要点を理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な話題に関する比較的短い記事やレポート、資料から、必要な情報を読み取ることができるようにする。 ○短い物語を読んで、あらすじを理解することができるようにする。 ○社会的な話題や知識のある短文や説明を読んで、概要や要点を理解できるようにする。 ○英語学習を目的として書かれた記事やレポートを読んで、概要や要点を理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○公共の場所(店、駅など)において、自分の問題を説明し、解決することができるようにする。 ○身近な話題や興味関心のある事柄について、準備をしないで会話に参加することができるようにする。 ○身近な話題や知識のある話題について、簡単な英語を用いて情報や意見を交換することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な話題や関心のある事柄について、即興で説明することができるようにする。 ○身近な話題や関心のある事柄について、まとまりのある内容を話すことができるようにする。 ○関心のある分野のテーマに関する記事や資料を読んで、その概要や要点を書きまとめることができるようにする。 ○関心のある分野のテーマについて、まとまりのある文章で具体的に説明するとともに、自分の意見やその理由を加えて書くことができるようにする。 	
中学校	A2	<ul style="list-style-type: none"> ○短い簡単なメッセージやアナウンスを聞いて、必要な情報を聞き取ることができるようにする。 ○身近な話題に関する短い会話を聞いて、概要や要点を理解することができるようにする。 ○ゆっくりに話されれば、身近な事柄に関する短い説明の要点を理解することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日常生活において身の回りにある短い平易なテキストから、必要な情報を読み取ることができるようにする。 ○平易な英語で書かれた短い物語を読んで、あらすじを理解できるようにする。 ○身近な話題に関して平易な英語で書かれた短い説明や手紙を読んで、概要や要点を理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日常生活や自分に関連した事柄に関する短い簡単なやり取りをすることができるようにする。 ○身近な話題や興味関心のある事柄について、ある程度準備をすれば、会話に参加することができるようにする。 ○身近な話題について、簡単な英語を用いて簡単な意見交換をすることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な事柄や出来事について、簡単な短文や文章を用いて即興で話すことができるようにする。 ○身近な話題や関心のある事柄について、簡単な説明をすることができるようにする。 ○身近な事柄について、自分の意見やその理由を簡単に話すことができるようにする。 ○聞いたり読んだりした内容について、簡単な短文や表現を用いて、自分の意見や感想を書くことができるようにする。 	
	A1	<ul style="list-style-type: none"> ○挨拶や簡単な指示を聞いて理解することができるようにする。 ○日常生活において必要となる基本的な情報を聞き取ることができるようにする。 ○ゆっくりに話されれば、身の回りの事柄に関する平易で短い会話や説明を、視覚情報などを参考にしながら理解することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日常生活において身の回りにある英語の中の語句や単純な文を理解できるようにする。 ○平易な英語で書かれたごく短い物語を読んで、視覚情報などを参考にしながら、あらすじを理解することができるようにする。 ○身の回りの事柄に関する平易な英語で書かれたごく短い説明を読んで、視覚情報などを参考にしながら、概要を理解することができるようにする。 ○ごく身近にあるアルファベットの文字を識別し、発音することができるようにする。 ○音声で十分に慣れ親しんだ、ごく身近で具体的な事物を表わす単語を見て、その意味を理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○相手の発意を理解できない場合など、必要に応じて、聞き返したり意味を確認したりすることができるようにする。 ○相手のサポート(ゆっくりに話す、繰り返す、言い換える、自分が言いたいことを表現するのに助け船をだしてくれる など)があれば、ごく身近な話題について、簡単な表現を使って質疑応答をすることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○簡単な短文や文章を用いて、自分について話すことができるようにする。 ○日常生活において必要となる基本的な情報を伝えることができるようにする。 ○ごく身近な事柄や出来事について、事実、自分の考えや気持ちなどを、簡単な短文や文章を用いて話すことができるようにする。 	
小学校	(Pre-A1)	<ul style="list-style-type: none"> ○アルファベットの発音を聞いて、どの文字であるかわかるようにする。 ○挨拶や短いごく簡単な指示を聞いて理解することができるようにする。 ○ゆっくりに話されれば、身近な事柄に関する短文や身近で具体的な事物を表わすごく簡単な短文や文を聞き取ることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○アルファベットの発音を聞いて、どの文字であるかわかるようにする。 ○挨拶や短いごく簡単な指示を聞いて理解することができるようにする。 ○ゆっくりに話されれば、身近な事柄に関する短文や身近で具体的な事物を表わすごく簡単な短文や文を聞き取ることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○定型表現を用いて、簡単な挨拶をすることができるようにする。 ○自分や身の回りの物事に関するごく限られたことについて、簡単な短文や文章を用いて話すことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○目的を持ってアルファベットの文字と小文字や活字で書くことができるようにする。 ○例文を参考にしながら、音声などで十分慣れ親しんだ短文や文を書き与えることができるようにする。 	

※CEFRとは、シラバズやカリキュラムの手引きの作成、学習指導教材の編集のために、20年以上にわたる研究を経て、2001年に欧州評議会 (Council of Europe) が発表。

小学校3年生外国語活動週1コマ
(Hi, friends! 1をベースにしたイメージ)

単元名	時間	＜題材＞ 使用表現	単元目標例	HFとの関連
Lesson 1 Hello!	3	＜言語・挨拶＞ Hello. Goodbye. My name is ~. Thank you.	・世界には様々な言語があることに気付くとともに、英語での挨拶の表現に慣れ親しみ、自分の名前を言うて挨拶しようとする。	1-L1
Lesson 2 I'm happy.	2(5)	＜ジェスチャー・感情・様子＞ 感情・様子を表す語 How are you? I'm happy.	・世界には様々なジェスチャーがあることに気付くとともに、感情や状態を表す語や表現に慣れ親しみ、表情やジェスチャーをつけて挨拶とともに、相手に感情や状態を伝えようとする。	1-L2
Lesson 3 How many apples? 250	4(9)	＜数・身の回りの物＞ 身の回りの物 one ~ ten How many ~? 色	・言語には、それぞれ特色があることを知るとともに、数の言い方や尋ね方に慣れ親しみ、身の回りのものを数えようとする。	1-L3
Lesson 4 My rainbow	5(14)	色 I like ~. Do you like ~? Yes. I do. No. I don't.	・英語と日本語の音の違いや、色について様々な見方があることに気付くとともに、好きなものを表わしたり、尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しみ、好きなものを尋ねたり答えたりしようとする。	1-L4 1-L5
Lesson 5 絵本教材活用単 元: In the Autumn Forest	4(18)	＜動物＞ 動物・体の部位・ 形状を表す語	・カタカナで表す動物とその英語との音の違いに気付き、まとまりのある英語での話を聞いてその大筋がわかり、動物や体の部位、形状を表す語に慣れ親しみ、まとまりのある英語での物語を聞いてその概要を理解し、自分が選んだ動物を紹介しようとする。	2-L7
Lesson 6 This is my favorite.	4(22)	＜外来語・食べ物＞ 野菜・果物・菓子 What do you like? I like ~		1-L6
Lesson 7 My name	5(27)	＜アルファベット大文字＞ A ~ Z What do you want? ~, please.	・身の回りにはアルファベットで表されているものが多いことに気付くとともに、アルファベットの読み方や、何が欲しいか尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しみ、相手意識を持って欲しいものを尋ねたり答えたりしようとする。	1-L6
Lesson 8 Welcome to our museum.	4(31)	＜身の回りの物＞ 身の回りの物・形状を表す 語 What ~ do you want?	・身の回りの物に関する外来語とその英語から、日本語と英語の音の違いに気付き、どのようなものが欲しいかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しみ、相手意識を持ってどのようなものが欲しいかを尋ねたり答えたりしようとする。	1-L6
Lesson 9 Who am I?	4(35)	＜動物・身の回りの物＞ 動物・身の回りの物・形 状・様子を表す語	・動物や形状・様子を表す語に慣れ親しみ、あるものを説明したり、相手意識を持ってある物について尋ねたり答えたりしようとする。	1-L7

小学校4年生外国語活動週1コマ
(Hi, friends! 1をベースにしたイメージ)

単元名	時間	題材・使用表現	単元目標例	HFとの関連
Lesson 1 Nice to meet you.	4 (4)	<p>〈世界の言語・アルファベット小文字〉 a ~ z Nice to meet you. My name is ~. What's your name?</p>	<p>・様々な言語があることに気付くとともに、アルファベット小文字や初めて出会った人との挨拶の仕方に慣れ親しみ、相手意識を持って挨拶しようとする。</p>	1-L1
Lesson 2 Turn right.	4 (8)	<p>〈学校・道案内〉 教室・学校 Where is ~? Go straight. Turn right/left.</p>	<p>・世界には様々な学校生活があることを知り、学校の中の物や教室名の言い方に慣れ親しみ、相手意識を持って学校を案内しようとする。</p>	2-L5
Lesson 3	4 (12)	<p>〈昆虫・自然〉 自然や位置に関する語句</p>	<p>・自然や位置に関する語句に慣れ親しみ、ジェスチャーや絵等、非言語手段を用いて、聞き手にわかりやすく話したり、わからない語句があっても類推しながら聞き続けたりしようとする。</p>	2-L5
Lesson 4 What's this?	5 (17)	<p>〈文字・アルファベット大文字〉 Aa ~ Zz What's this? It's ~.</p>	<p>・世界には様々な文字があることや、身の回りにアルファベットの文字で表されているものが多いことに気付くとともに、身の回りの物や、あるものが何かを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しみ、相手意識を持ってあるものが何かを尋ねたり答えたりしようとする。</p>	1-L7
Lesson 5 絵本教材活用単元: Good morning!	5 (22)	<p>〈一日の生活〉 動作・気持ちを表す語 I have/study/play ~.</p>	<p>・言葉には深い意味があることに気付き、様々な動作や気持ちを表す表現に慣れ親しみ、まとまりのある話の概要を理解しようとする。</p>	2-L7
Lesson 6 Ten years!	4 (26)	<p>〈職業〉 職業・身の回りの物・感情を表す語 What do you want to be? I want to be ~.</p>	<p>・世界には様々な職業があることに気付き、職業を表す語に慣れ親しみ、就きたい職業について聞いたり言ったりしようとする。</p>	2-L8
Lesson 7 What's this? Quiz	4 (30)	<p>〈クイズ身の回りの物〉 動物 形状を表す語 色・形状 What's this?</p>	<p>・英語と日本語の音声の違いに気付き、身の回りのものの言い方に慣れ親しみ、二往復以上のやりとりをしようとする。</p>	1-L7
Lesson 8 Welcome to my town.	5 (35)	<p>〈自分の住む地域〉 建物・有名な物を表す語 状態・感情を表す語</p>	<p>・形、色、形状等の語いやそれらに関する表現に慣れ親しみ、あるものについて説明しようしようとする。</p>	1-L7

次期学習指導要領の5・6年生の年間指導計画 イメージ(案) たたき台

短時間学習は…各単元の内、系統性を確保するため、まとまりのある学習と、「繰り返しの学習」や「深まりのあるコミュニケーション活動」等とを関連付けながら、アルファベットの文字、語彙や表現の定着を図る。

平成28年6月20日会議後修正

小学校5年生外国語年間70コマ

単元名	時間	題材等	目標例(二重下線部は、HFに設定されていない部分)	HF上の標準・アセスメント
Lesson 1 Hello, everyone.	5(5)	挨拶・自己紹介 I like / don't like ~. 反応	・自分のことについて <u>簡単に紹介できるようにする</u> とともに、自分のことについて相手を尊重しながら伝え合おうとする。	1-L1 ③
Lesson 2 Do you have "a"?	8(13)	身の回りの英語表記 アルファベット大小文字 Do you have ~?	・身の回りにアルファベットの文字で表されているものが多いことや、 <u>アルファベットには読み方と書があることに気付き、アルファベットの文字を読んだり、あるものを持っているかどうかを尋ねたり答えたりすることができるようにする</u> とともに、 <u>アルファベットの文字を読んだり書き写したり、あるものを持っているか尋ねたり答えたりしようとする</u> 。	2-L1 ④
Lesson 3 When is your favorite day?	8(21)	月日・季節 When is ~? Why?	・世界には様々な行事があることに気付き、 <u>日程を尋ねたり答えたりすることができるようにする</u> とともに、 <u>自分の大切な日について理由を含めて伝え合ったり、丁寧にアルファベットの文字を書き写したりしようとする</u> 。	2-L2 ④
Lesson 4 This is ME!	8(29)	スポーツ・楽器 身の回りのもの・動作 I can ~. Can you ~?	・人それぞれであることに気付き、 <u>物語のあらすじを聞き取ったり、できることを尋ねたり答えたりすることができるようにする</u> とともに、 <u>自分の得意なことやできないことを伝え合ったり、丁寧にアルファベットの文字を書き写そうとしたりする</u> 。	2-L3 ④
Lesson 5 Turn right.	7(36)	建物 道案内 Where is ~?	・世界の町の様子から日本との相違点に気付き、 <u>道を尋ねたり、道案内したりできる</u> ようにするとともに、相手にわかるように道案内したり、 <u>正確にアルファベットの文字を書き写したりしようとする</u> 。	2-L4 ④
Lesson 6 This is our town!	8(44)	自然 食べ物 特産物等 This is ~.	・自分たちの町の様子から、世界との共通点に気付き、 <u>自分たちの住む町について伝え合うことができる</u> ようにするとともに、自分たちの住む町のお薦めを紹介しようしたり、 <u>正確にアルファベットの文字を書き写したりしようとする</u> 。	新規 ⑧
Lesson 7 My school schedule	8(52)	教科名 曜日 身の回りのもの I study ~ on Monday.	・世界の同年代の子供の学校生活から自分たちとの相違点や共通点、 <u>単語はアルファベットの文字がまとまってできていることに気付き、学校生活について説明し合ったり、正確にアルファベットの文字を書いたりできる</u> ようにするとともに、お気に入りの時間を入れた時間割を伝え合おうとする。	1-L8 ③
Lesson 8 Healthy menu	8(60)	食べ物 食習慣 What would you like?	・世界には様々な食生活があることに気付き、 <u>丁寧に欲しい物を尋ね、答えたり、正確にアルファベットの文字を書き写すことができる</u> ようにするとともに、健康に良い食事について伝え合おうとする。	1-L9 ④
Lesson 9 We are good friends.	10(70)	世界の童話 日本の童話 Let's ~.	・世界には子供たちに様々な願いを込めて書かれた童話等があることや、 <u>アルファベットの文字がまとまって単語になることに気付き、まとまった英語の物語を聞いて、内容がわかり、場面に合ったセリフを言ったり、正確にアルファベットの文字を書き写すことができる</u> ようにするとともに、英語で物語の内容を伝え合おうとする。	2-L7 ④

【短時間学習の例・イメージ】

例えば、Lesson 3
自分の大切な日について

○季節・月日などの語彙や日程を尋ねたり答えたりする表現を使うことができる。

主な目標と活動例

- ・「チャンツ」を通して、季節・月日などの単語に慣れる。
- ・「ステレオゲーム」を通して、月日などの単語や日程の尋ね方を使えるようにする。
- ・補助教材ワークシートなどを活用してアルファベットの文字を丁寧に書き写すようにする。

この短時間学習を45分+15分で60分として、意味のある場面設定の中で、「深まりのあるコミュニケーション活動」等をするこも考えられる。

小学校6年生外国語年間70コマ

【短時間学習の例・イメージ】

例えば、Lesson 6
学校行事について

主な目標と活動例

○思い出の学校行事について自分の考えを表現するとともに、思い出の学校行事名を正確に書き出すことができる。

- ・「学校行事かるた取りゲーム」を通して、学校行事を表す単語に慣れる。
- ・「チャンツ」を通して、行事の言い方を使えるようにする。

・「学校行事名の文字をなぞる」活動を通して文字を正確に書き写すようにする。

この短時間学習を45分+15分で60分として、意味のある場面設定の中で、「深まりのあるコミュニケーション活動」等をすることも考えられる。

単元名	時間	題材	目標例	学習の目標・方針と評価
Lesson 1 Hello, nice to meet you.	5(5)	挨拶 自己紹介 I'm ~.	世界には様々な挨拶の仕方があることに気付くとともに、 <u>簡単なやりとりをして自分について伝え合ったり、自分の名前を正確に書いたりすることができるよう</u> に、自分について相手にわかるように伝え合おうとする。	1-L1 ③
Lesson 2 This is our school.	8(13)	教室名 身の回りの物 形状・気持ちを表す語 I like ~.	世界の子供たちの生活から自分たちとの共通点や相違点に気付くとともに、 <u>自分の学校について簡単に説明したり、学校名を正確に書いたりすることができるよう</u> にするとともに、 <u>自分たちの学校について自分の考えを伝え合おうとする</u> 。	2-L4 ④
Lesson 3 Let's go to Italy.	8(21)	世界の国々 生活 I want to go to ~.	世界の国々の様子から日本との共通点や相違点に気付き、 <u>行ってみたい国についてその理由とともに簡単に説明したり、国名を正確に書き写したりすることができるよう</u> にするとともに、 <u>お薦めの国について伝え合ったり、単語を推測して読んだりしようとする</u> 。	2-L5 ④
Lesson 4 Welcome to our country.	8(29)	日本の特徴 ~ is ~.	日本の様子から世界の国々との共通点や相違点に気付き、 <u>日本について伝えることができるようにするとともに、日本の長さについて自分の考えを相手にわかるように伝え合い、単語を正確に書き写したり、推測して読んだりしようとする</u> 。	新規 ⑧
Lesson 5 What time do you get up?	8(37)	一日の生活 時刻 I get up at 7:00.	世界の人々は様々な生活の中で精一杯生活を営んでいることや、時差があること、 <u>英語と日本との差の仕方の違いに気付き、自分の一日の生活について伝え合うことができるようにするとともに、自分の大切にしている時間について伝え合い、単語を正確に書き写したり、推測して読んだりしようとする</u> 。	2-L6 ③
Lesson 6 A letter to ...	8(45)	動物 ~ is chasing ~.	世界の様々な課題や、 <u>英語の語順に気付き、まとまった内容の話を聞いて理解し、自分のできることを伝え合い、単語を正確に書き写したりできる</u> ようにするとともに、 <u>世界の様々な課題に対して自分ができることを伝え合ったり、単語を推測して読んだりしようとする</u> 。	2-L3・L7 ⑧
Lesson 7 My favorite event	8(53)	学校生活 My favorite event is ~.	世界の学校生活の様子から日本との共通点や共通点に気付き、 <u>6年間の小学校生活について自分の考えを伝え合ったり、単語を正確に書き写したりすることができるよう</u> にするとともに、 <u>思い出に残る行事についてその理由を含めて伝え合ったり、単語を推測して読んだりしようとする</u> 。	新規 ⑧
Lesson 8 What do you want to be?	8(61)	職業 気持ちを表す語 I want to be a teacher.	世界には様々な夢をもつ同年代の子供たちがいることに気付き、 <u>つきたい職業について伝え合ったり、単語を正確に書き写したりすることができるよう</u> にするとともに、 <u>自分の将来について伝え合ったり、単語を推測して読んだりしようとする</u> 。	2-L7 ④
Lesson 9 Junior High School Life	9(70)	中学校生活 I want to enjoy ~.	<u>中学校生活についてのまとまった話を理解し、自分の考えを表現したり、単語を正確に書き写したりできる</u> ようにするとともに、 <u>中学校生活の期待について簡単にスピーチをしたり、単語を推測して読んだりしようとする</u> 。	新規 ⑧



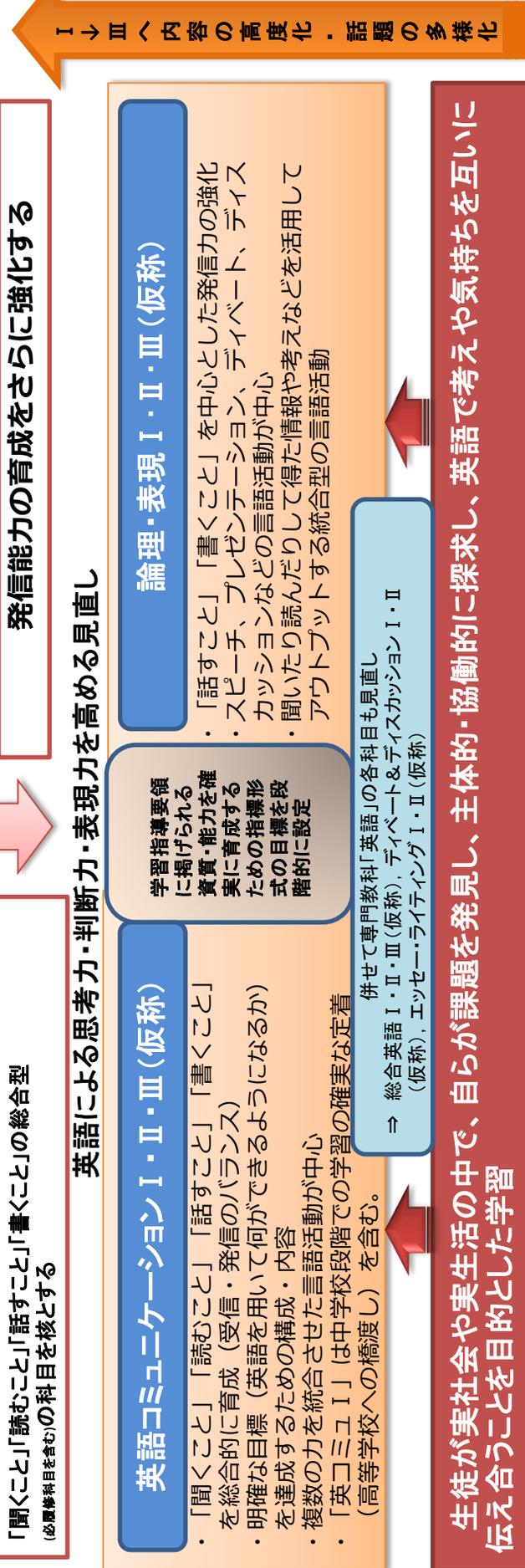
課題

生徒の英語力について、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」全般、特に「話すこと」と「書くこと」の能力が課題
 ・英語の学習意欲に課題
 ・言語活動、特に、統合型の言語活動（例：聞いたり読んだりしたり書くことに基づいて話したりする活動）が十分ではない
 ・グローバル時代において、英語学習に関する生徒の多様化への対応が必要

発信力が弱い

資質・能力等

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、他者を尊重し、聞き手・話し手・読み手・書き手に配慮しながら、コミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図るとともに、日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝え合ったりする能力を養う



**「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の総合型
 （必修科目を含む）の科目を核とする**

英語による思考力・判断力・表現力を高める見直し

英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ（仮称）

- ・「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」を総合的に育成（受信・発信のバランス）
- ・明確な目標（英語を用いて何ができるようになるか）を達成するための構成・内容を
- ・複数の力を統合させた言語活動が中心
- ・「英コミュⅠ」は中学校段階での学習の確実な定着（高等学校への橋渡し）を含む。

学習指導要領に掲げられる資質・能力を確実に育成するための指標形式の目標を設定

論理・表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（仮称）

- ・「話すこと」「書くこと」を中心とした発信力の強化
- ・スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッションなどの言語活動が中心
- ・聞いたり読んだりして得た情報や考えなどを活用してアウトプットする統合型の言語活動

併せて専門教科「英語」の各科目も見直し
 ⇒ 総合英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（仮称）、ディベート&ディスカッションⅠ・Ⅱ（仮称）、エッセー・ライティングⅠ・Ⅱ（仮称）

改訂の方向性（案）

生徒が実社会や実生活の中で、自らが課題を発見し、主体的・協働的に探求し、英語で考えや気持ちを互いに伝え合うことを目的とした学習

外国語教育の抜本的強化のイメージ

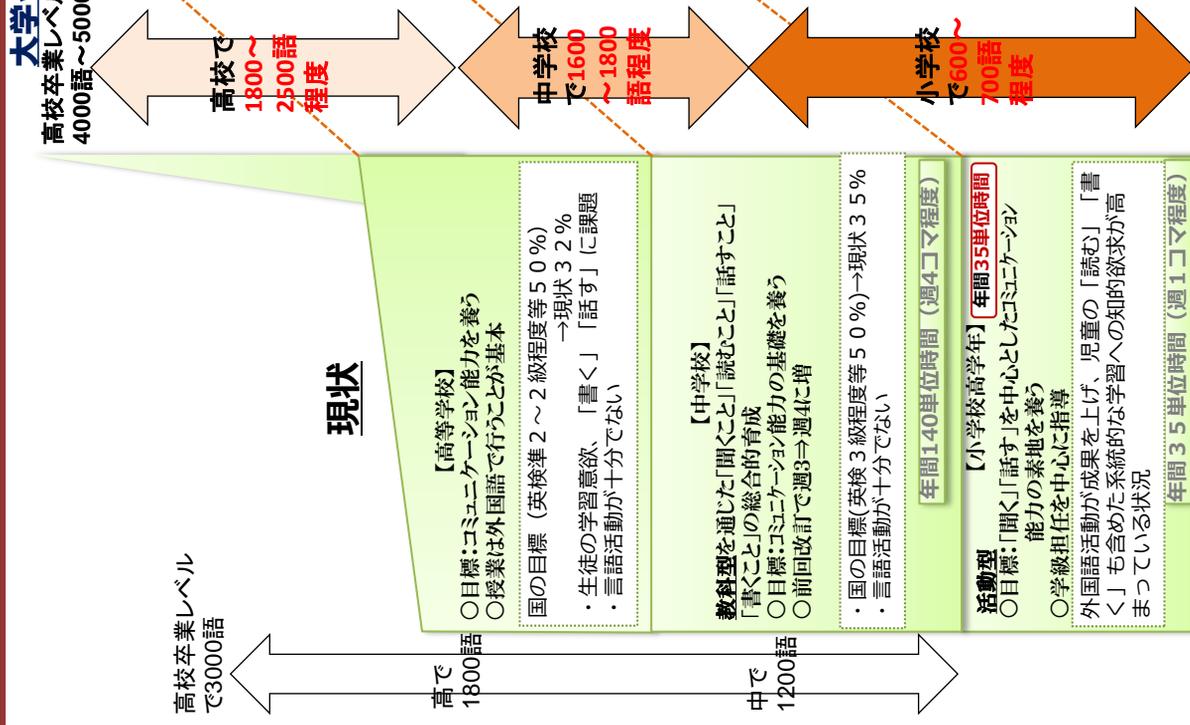
参考資料

成熟社会にふさわしい我が国の価値を海外展開したり、幅広い交渉を勝ち抜く人材の育成

新たな外国語教育

大学や海外、社会で英語力などを伸ばす基礎を確実に育成

高校卒業レベルで
4000語～5000語程度



【高等学校】

目標例:例えば、ある程度の長さの新聞記事を読読して必要な情報を取り出したり、社会的な問題や時事問題など幅広い話題について課題研究したことを発表・議論したりすることができるようにする。

- 外国語やその背景にある文化の多様性を尊重し、他者に配慮しながら、幅広い話題について情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりする能力を養う。
- 授業を外国語で行うことを基本とするとともに、
 - ①「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」を総合的に扱う言語活動
 - ②特に、課題がある「話すこと」、「書くこと」において発信力を強化する言語活動を充実(発表、討論・議論、交渉等)。

【中学校】

年間140単位数時間

目標例:例えば、短い新聞記事を読んだり、テレビのニュースを見たりして、その概要を伝えることができるようにする。

- 互いの考えや気持ちなどを外国語で伝え合う対話的な言語活動を重視した授業を外国語で行うことを基本とする。
- 外国語やその背景にある文化の多様性を尊重し、他者に配慮しながら、具体的に身近な話題についての理解や表現、簡単な情報交換ができるコミュニケーション能力を養う。

【小学校】

年間70単位数時間

教科型

【小学校高学年】

目標例:例えば、馴染みのある定型表現を使って、自分の好きなものや、家族、一日の生活などについて、友達に質問したり質問に答えたりできるようにする。

- 外国語やその背景にある文化の多様性を尊重し、相手に配慮しながら聞いたり話したりすることに加えて、読んだり書いたりすることについての態度の育成も含め、コミュニケーション能力の基礎を養う。
- 学級担任が専門性を高め指導、併せて専科指導を行う教員を活用、ALT等を一層積極的に活用。

教科として系統的に学ぶため、短時間学習や、45分に15分を加えた60分授業の設定等の柔軟な時間割編成を可能とする

【小学校中学年】

年間35単位数時間

活動型

- 外国語を通じて、言語やその背景にある文化の多様性を尊重し、相手に配慮しながら聞いたり話したりすることを中心にしたコミュニケーション能力の素地を養う。
- 主に学級担任がALT等を一層積極的に活用したT・Tを中心とした指導。

※CEFRとは、シラバスやカリキュラムの手引きの作成、学習指導教材の編集のために、透明性が高く分りやすく参照できるものとして、20年以上にわたる研究を経て、2001年に欧州評議会(Council of Europe)が発表。

外国語教育における「見方や考え方」を働かせた深い学びと資質・能力の育成(イメージ案)

参考資料

小・中・高等学校で一貫した目標(指標形式の目標を含む)の下で、発達段階に応じた「学習プロセス」を経ることで、「学習プロセス」による思考力や判断力の深まり、外国語による表現力の向上、主体的・自律的に学習する態度の育成などを通じ、的確に理解し適切に伝え合うコミュニケーション能力を育成

資質・能力の例

小学校 (中学年)

簡単な語句や表現を使って、自分のことや身の回りのことについて、友達に質問したり質問に答えたりするコミュニケーション力

小学校 (高学年)

馴染みのある表現を使って、自分の好きなものや一日の生活などについて、友達に質問したり質問に答えたりするコミュニケーション力

中学校

○具体的で身近な話題について、学校、地域、他教科等での学習内容等と関連付けながら、互いの考えや気持ちなどを外国語で適切に伝え合う力
○聞いたり読んだりしたことを活用して話したり書いたりして発信するコミュニケーション力

高等学校

○日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりするコミュニケーション力
○聞いたり読んだりしたことを活用して話したり書いたりして発信するコミュニケーション力

指標形式の目標(「話すこと」の例)

小学校 (中学年)

(例)
自分や身の回りのごく限られたことについて、自分の気持ちなどを伝えようとできるようにする。

小学校 (高学年)

(例)
身近で簡単なテーマについて、初歩的な英語で簡単なスピーチをできるようにする。

中学校

(例)
身近な事柄や出来事について、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができるようにする。

高等学校

(例)
身近な話題や知識のある話題について、簡単な外国語を用いて情報や意見を交換し合うことができるようにする。

思考力・判断力・表現力、主体的・自律的な態度に基づく、的確に理解し適切に伝え合うコミュニケーション能力の育成

【見方や考え方の例】
外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて、情報や自分の考えなどを形成、整理、再構築すること

目的に応じたコミュニケーションのプロセス

【学習プロセス】

- ① 目的の設定・理解
- ② 目的に応じた発信までの方向性の決定・言語活動等の見直し
- ③ 目的実現のための言語活動(「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の統合型)
- ④ まとめと振り返り

次の活動へ

※詳細は次ページ参照

「見方や考え方」の成長・発展

概念的な知識の獲得

思考力・判断力・表現力等の育成

情意・態度の育成

- ・対話的な学び
- ・深い学び
- ・主体的な学びへ

外国語活動・外国語科の学習過程のイメージ(案)

他者への働きかけ、他者との協働 外部との相互作用

20160628案

次のコミュニケーションにおける目的の設定・活動

目的に応じたコミュニケーションのプロセス

目的の設定・理解

目的に応じた発信までの方向性の決定・言語活動等の見直し

資質・能力の例について

○簡単な語句や表現を使って、自分のことや身の回りのことについて、友達に質問したり質問に答えたりするコミュニケーション

①【目的の設定・理解例】
小学校(中学年)
簡単な語句や表現を使って、自分のことや身の回りのことについて話したり聞いたりして、外国語によるコミュニケーションを体験する。

③【目標実現のための活動例】
使用表現について理解したり、練習したりする活動・お互いの考えや気持ちを伝え合う活動
【言語の使用場面の例】
・特有の表現がよく使われる場面：挨拶、自己紹介、買物、食事、道案内
・原重の身近な暮らしにかかわる場面：家庭生活、学校での学習・活動、地域行事、子どもの遊び
【コミュニケーションの動きの例】
・相手との関係を円滑にする、気持ちを伝える、事実を伝える、相手の行動を促す

○馴染みのある定型表現を使って、自分の好きなものや、一日の生活等について、友達に質問したり、質問に答えたりするコミュニケーション

①【目的の設定・理解例】
小学校(高学年)
馴染みのある定型表現を使って、自分の好きなものや、一日の生活などについて、友達に質問したり質問に答えたりできる。

③【目標実現のための活動例】
言語材料について理解したり練習したりする活動
・互いの考えや気持ちを伝え合う活動アルファベットの文字や単語等の認識を深めたり、日本語と英語の音声の違いやそれぞれの特徴や語順に気付いたりする活動
【言語の使用場面の例】
・特有の表現がよく使われる場面挨拶、自己紹介、買物、食事、道案内
・原重の身近な暮らしにかかわる場面：家庭生活、学校での学習・活動、地域行事、子どもの遊び
【コミュニケーションの動きの例】
・相手との関係を円滑にする、気持ちを伝える、事実を伝える、相手の行動を促す

○具体的に身近な話題について、学校、地域、他教科等での学習内容等と関連付けながら、お互いの考えや気持ちなどを外国語で適切に伝え合う能力

①【目的の設定・理解例】
中学校
具体的に身近な話題の概要・要点を正確に理解し、考えや気持ち等を適切に伝えたり、簡単な情報交換をしたりできる。

③【目標実現のための活動例】
言語材料について理解したり練習したりする活動
・互いの考えや気持ちを伝え合う活動
・具体的な場面に合った適切な表現を自ら考えて言語活動ができるようになる
※小学校で扱った語、表現等を繰り返し学ぶ。その際、小学校とは異なる場面や文脈で活用
【言語の使用場面の例】
・特有の表現がよく使われる場面：挨拶、自己紹介、買物、食事、道案内、旅行、電話
・生徒の身近な暮らしに関わる場面家庭生活、学校での学習・活動、地域行事
【コミュニケーションの動きの例】
・相手との関係を円滑にする、気持ちを伝える、情報を伝える、考えや意図を伝える相手の行動を促す

○日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりするコミュニケーション

①【目的の設定・理解例】
高等学校
日常生活や社会生活に関する幅広い話題の概要・要点を的確に理解し、情報や考えなどを適切に伝えることができる。

③【目標実現のための活動例】
言語材料について理解したり練習したりする活動
・幅広い話題について聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解する活動
・幅広い話題について話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝え合う活動
・幅広い話題について発表、討論、議論、交渉などを行う活動
【コミュニケーション能力の設定】
・「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の基礎的な能力(必修教科目)
⇒ 的確に理解し、適切に伝え合う能力(必修教科目+選択科目)
・英語話者が理解できる程度の英語(必修教科目)
⇒ 英語話者が理解できる程度の英語+ある程度の流暢さ(必修教科目+選択科目)
【話題の設定】
身近な話題及び日常的な話題や関心のある分野(必修教科目)
⇒ 時事的な話題や社会問題など(必修教科目+選択科目)
⇒ 情報や考えなどの発表、やりとりに関する言語活動の設定
【言語活動の例】
・(発表) スピーチ、プレゼンテーション等
・(やり取り) デベート、ディスカッション等
・(小・中学校で扱った語句や表現等を繰り返し学ぶ。その際、小・中学校とは異なる場面や文脈で活用できるようにするなど、スバイラルに学習する)
※具体的な言語の使用場面に即した適切な表現を自ら考へて
※ヘア、ワークやグループ、ワークを学習形態の基本とする

○日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりするコミュニケーション

①【目的の設定・理解例】
高等学校
日常生活や社会生活に関する幅広い話題の概要・要点を的確に理解し、情報や考えなどを適切に伝えることができる。

③【目標実現のための活動例】
言語材料について理解したり練習したりする活動
・幅広い話題について聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解する活動
・幅広い話題について話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝え合う活動
・幅広い話題について発表、討論、議論、交渉などを行う活動
【コミュニケーション能力の設定】
・「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の基礎的な能力(必修教科目)
⇒ 的確に理解し、適切に伝え合う能力(必修教科目+選択科目)
・英語話者が理解できる程度の英語(必修教科目)
⇒ 英語話者が理解できる程度の英語+ある程度の流暢さ(必修教科目+選択科目)
【話題の設定】
身近な話題及び日常的な話題や関心のある分野(必修教科目)
⇒ 時事的な話題や社会問題など(必修教科目+選択科目)
⇒ 情報や考えなどの発表、やりとりに関する言語活動の設定
【言語活動の例】
・(発表) スピーチ、プレゼンテーション等
・(やり取り) デベート、ディスカッション等
・(小・中学校で扱った語句や表現等を繰り返し学ぶ。その際、小・中学校とは異なる場面や文脈で活用できるようにするなど、スバイラルに学習する)
※具体的な言語の使用場面に即した適切な表現を自ら考へて
※ヘア、ワークやグループ、ワークを学習形態の基本とする

④・内容面でのまとめと振り返り(得られた情報についての感想やコミュニケーションを体験しての感想など)

④・言語面でのまとめと振り返り(活用していた言語表現等についての特徴や気づきなどを含む)

④・言語面でのまとめと振り返り(話して伝えたことをより正確に書くなど)

④・言語面でのまとめと振り返り(話し合ったことや発信したことなどの整理など)

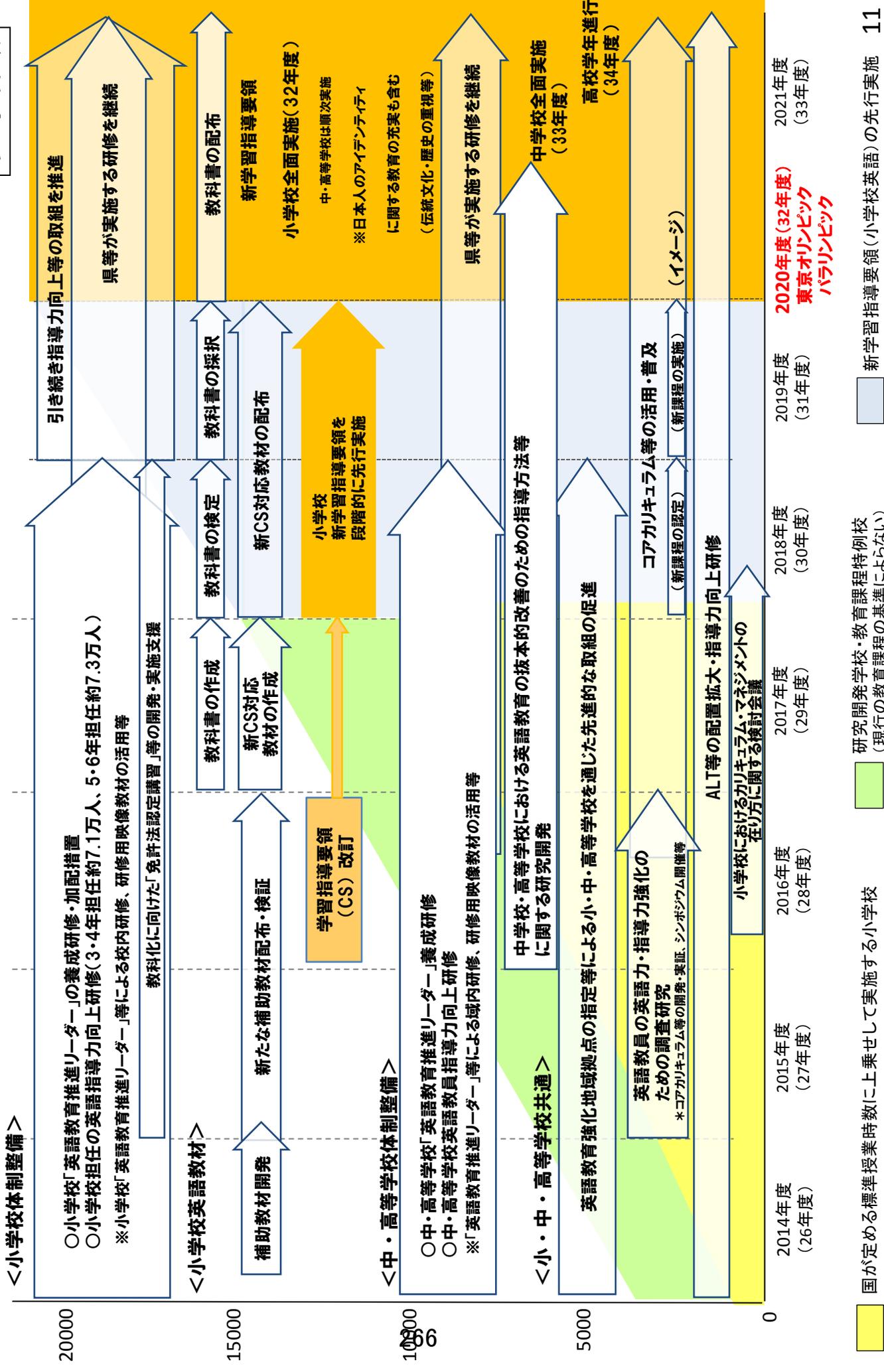
④・言語面でのまとめと振り返り(話し合ったことや発信したことなどの整理など)

※必ずしも一方通行の流れではない

グローバル化に対応した英語教育改革実施計画スケジュール(イメージ)

(小学校数)

参考資料



国が定める標準授業時数に上乗せして実施する小学校

研究開発学校・教育課程特例校
(現行の教育課程の基準によらない)

2020年度(32年度) 東京オリンピック
パラリンピック

2021年度(33年度)

11

(13) 情報

① 現行学習指導要領の成果と課題を踏まえた情報科の目標の在り方

i) 現行学習指導要領の成果と課題

- 近年、情報技術は急激な進展を遂げ、社会生活や日常生活に浸透するなど、子供たちを取り巻く環境は劇的に変化している。今後、人々のあらゆる活動において、そうした機器やサービス、情報を適切に選択・活用していくことがもはや不可欠な社会が到来しつつある。それとともに、今後の高度情報社会を支えるIT人材の裾野を広げていくことの重要性が、各種政府方針等により指摘されている。そうした中、情報科は高等学校における情報活用能力育成の中核となってきたが、情報の科学的な理解に関する指導が必ずしも十分ではないのではないかと、情報やコンピュータに興味・関心を有する生徒の学習意欲に必ずしも応えられていないのではないかとといった課題が指摘されている。
- こうしたことを踏まえ、小・中・高等学校を通じて、情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる力や情報モラル等、情報活用能力を育む学習を一層充実するとともに、高等学校情報科については、生徒の卒業後の進路等を問わず、情報の科学的な理解に裏打ちされた情報活用能力を育むことが一層重要となってきている。

ii) 課題を踏まえた情報科の目標の在り方

- 情報科は、小・中・高等学校の各教科等の指導を通じて行われる情報教育の中核として、小・中学校段階からの問題発見・解決や情報活用の経験の上に、情報や情報技術を問題の発見と解決に活用するための科学的な理解や思考力等を育み、ひいては、生涯にわたって情報技術を活用し現実の問題を発見し解決していくことができる力を育む教科と位置付けられる。そこで、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の三つの柱に沿って整理された小・中・高等学校の各教科等の学習を通じて全ての生徒に育成を目指す情報に関わる資質・能力を踏まえ、情報科において育成を目指す資質・能力を整理し（別添14-1を参照）、さらに、これを踏まえて情報科の教科目標を示すことが必要である。（小・中・高等学校を通じた情報教育と高等学校情報科の位置付けのイメージについて、別添14-2を参照）。
- 情報活用能力については従前から情報教育の目標の3観点を示され、主として情報活用能力を育むための指導内容や学習活動を具体的にイメージしやすくし指導を充実させることに寄与してきた。今後、「三つの柱」による資質・能力の視点を踏まえることにより、育成を目指す資質・能力とも関わらせながら具体的な指導内容や学習活動が一層イメージしやすくなるものと考えられる。

iii) 情報科における「見方・考え方」

- この際、情報科は、情報と情報技術に関する理解と技能とを基盤として、問題を発見・解決する能力や態度を育むことを目的としてきており、いわば情報技術の活用による問題の発見・解決の過程や手法そのものをも学ぶ教科であるということが情報科の特徴であり、情報科における「見方・考え方」とは、「事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けた情報技術の適切かつ効果的な活用（プログラミング、モデル化とシミュレーション、情報デザイン等）について考えること」であると整理した。
- なお、情報科は、小・中・高等学校の各教科等の指導を通じて行われる情報教育の中核であるから、カリキュラム・マネジメントを通じた、中学校の関連する教科等との縦の連携、高等学校の他教科等との横の連携も極めて重要である。

② 具体的な改善事項

i) 教育課程の示し方の改善

ア 資質・能力を育成する学びの過程についての考え方

- 情報科の学習は、社会、産業、生活、自然等の種々の事象の中から問題を発見し、プログラムを作成・実行したりシミュレーションを実行したりするなど、情報技術を活用して問題の解決に向けた探究を行うという過程を通して展開される。実際の学習過程には多様なものがあると考えられるが、一例としては、次のようなプロセスが考えられる。（別添14-3を参照）。
- ①社会、産業、生活、自然等の事象の中からの問題の発見（モデル化や統計的手法等を活用）
- ②情報の収集・分析による問題の明確化、解決の方向性の決定
- ③合理的判断に基づく解決方法の選択、手順の策定や基本設計
- ④情報技術の適用・実行
- ⑤得られた結果を社会、産業、生活、自然等の問題に適用して有効に機能するか等についての検討
(これらのプロセスに並行して、情報や情報技術等に関する知識の習得を行う。)

イ 指導内容の示し方の改善

- 情報科においては、学習過程は上で述べたように多様なものが考えられるが、資質・能力を明確に示すことによって、具体的にどのような指導を行えばよいのかがイメージしやすくなるものと考えられることから、教育内容については、情報科で育む資質・能力を、情報技術と情報を扱う方法にしたがって整理した上で、それぞれの教育内容を更に資質・能力の整理に沿って示していくことが適当である。

ii) 教育内容の改善・充実

ア 科目構成の見直し

- 情報科の科目構成については、現行の「社会と情報」及び「情報の科学」の2科目からの選択必修を改め、問題の発見・解決に向けて、事象を情報とその結び付きの視点から捉え、情報技術を適切かつ効果的に活用する力を全ての生徒に育む共通必修科目としての「情報Ⅰ（仮称）」を設けるとともに、「情報Ⅰ（仮称）」において培った基礎の上に、問題の発見・解決に向けて、情報システムや多様なデータを適切かつ効果的に活用する力や情報コンテンツを創造する力を育む選択科目としての「情報Ⅱ（仮称）」を設けることが適当である。（別添14-4を参照）

イ 教育内容の見直し

- 情報科については、情報の科学的な理解に裏打ちされた情報活用能力を育むとともに、情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための科学的な考え方等を育むことが求められている。そのため、具体的には、コンピュータについての本質的な理解に資する学習活動としてのプログラミングや、より科学的な理解に基づく情報セキュリティに関する学習活動などを充実する必要がある。また、統計的な手法の活用も含め、情報技術を用いた問題発見・解決の手法や過程に関する学習を充実する必要がある。
- これを踏まえ、「情報Ⅰ（仮称）」においては、プログラミング及びモデル化とシミュレーション、ネットワーク（関連して情報セキュリティを扱う）とデータベースの基礎といった基本的な情報技術と情報を扱う方法とを扱うとともに、情報コンテンツの制作・発信の基礎となる情報デザインを扱い、さらに、この科目の導入として、情報モラルを身に付けさせ情報社会と人間との関わりについて考えさせることとして、内容を構成することが適当である。
- また、「情報Ⅱ（仮称）」においては、情報システム、ビッグデータやより多様な情報コンテンツを扱うとともに、情報技術の発展の経緯と情報社会の進展との関わり、さらにAIやIoT等の技術と今日あるいは将来の社会との関わりについても考えさせることとして、内容を構成することが適当である。
- なお、プログラミングに関しては、中学校技術・家庭科（技術分野）においても充実させることとしており、情報科の内容の検討に当たっては、学習内容の適切な接続・連携により学習に広がりや深まりが生まれるよう留意する必要がある。さらに、小学校段階におけるプログラミングの体験を通じて「プログラミング的思考」を育むことや、学校外におけるプログラミングに関する学習機会の充実に向けて、種々の検討や、企業、NPOにおける取組等がなされており、これらの動向も考慮して検討する必要がある。

iii) 学習・指導の改善充実や教育環境の充実等

ア 「主体的・対話的で深い学び」の実現

- 情報科における「深い学び」とは、具体的な問題の発見・解決に取り組むことを通して、日常生活においてそうした問題の発見・解決を行っていることを認識し、その過程や方法を意識して考えるとともに、その過程における情報技術の適切かつ効果的な活用

を探究していく中で「見方・考え方」を働かせ成長させること、それとともに、情報技術を活用し、試行錯誤して目的を達成することにより、情報や情報技術等に関する概念化された知識、問題の発見・解決に情報技術を活用する力や情報社会との適切な関わりについて考え主体的に参画しようとする態度などといった資質・能力を獲得していくことであると考えられる。

- 情報科における「対話的な学び」とは、生徒が協働して問題の発見・解決に取り組んだり、互いに評価し合ったりして、情報技術のより効果的な活用を志向し探究したり、産業の現場など実社会の人々と関わるなどして現実の問題解決に情報技術を活用することの有効性を、実感をもって理解したりすることなどであると考えられる。
- 情報科における「主体的な学び」とは、見通しをもって試行錯誤することを通して自らの情報活用を振り返り、評価・改善して、次の問題解決に取り組むことや、生徒に達成感を味わわせ学習に取り組む意欲を高めたり、個々の興味・関心や能力・適性に応じてより進んだ課題に取り組んだりすることなどであると考えられる。

イ 教材や教育環境の充実

- 情報科の教材（教科書を含む。）については、いたずらに細かなあるいは高度な知識を身に付けることを目指すのではなく、生徒が問題の発見・解決に向けて情報技術を積極的に活用し主体的・協働的に学習を進めることができるものが適当である。その上で、生徒の興味・関心等に応じて、より進んだ学習も含め、主体的に学習を深めていくこともできるよう配慮されたものであることが望まれる。また、プログラムの制作・実行環境等については、情報科の趣旨を踏まえた授業の実施に適したアプリケーション等の開発・提供が必要であり、国や教育委員会と民間等との連携によりそれらの開発・提供が促進される必要がある。さらに、民間独自の良質な教材や学校外の教育プログラムなどとの連携等を促していくことも必要である。
- 情報科担当教員について、各都道府県教育委員会等においては、情報科免許状を有する者の計画的な採用・配置や現職教員の情報科免許状保有の促進等により、免許外教科担任や臨時免許状による担任の解消に務める必要がある。また、情報科の指導内容・方法に関する研修の充実による担当教員の専門性向上も急務であり、国においても各都道府県教育委員会等における研修の充実に資する支援策を講じる必要がある。
- 情報科における学習を充実していく上では、教育用コンピュータだけでなく、安全で高速にインターネット接続できる大容量のネットワーク環境等、学習活動の充実に必要なICT環境全体の整備を進めることが不可欠である。なお、ネットワークのセキュリティに関しては、不正アクセス等に対する十分な対策を講じると同時に、有害情報対策等がかえって必要な学習活動を展開する上での過剰な制約とならないようきめ細かな設定等に留意する必要がある。

情報科において育成を目指す資質・能力の整理（案）

<p>知識・技能</p>	<p>思考力・判断力・表現力等</p>	<p>学びに向かう力・人間性等</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・情報と情報技術を適切に活用するための知識と技能 ・情報と情報技術を活用して問題を発見・解決するための方法についての理解 ・情報社会の進展とそれが社会に果たす役割と及ぼす影響についての理解 ・情報に関する法・制度やマナーの意義と情報社会において個人が果たす役割や責任についての理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な事象を情報とその結び付きの視点から捉える力 ・問題の発見・解決に向けて情報技術を適切かつ効果的に活用する力 <ul style="list-style-type: none"> - 必要な情報の収集・判断・表現・処理・創造に情報技術を活用する力 - プログラミングやコミュニケーションを効果的に実行する力 - 情報技術を用いたコミュニケーションを適切に実行する力 ・複数の情報を結び付けて新たな意味を見いだす力 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を多角的・多面的に吟味しその価値を見極めていこうとする態度 ・自らの情報活用を振り返り、評価し改善しようとする態度 ・情報モラルや情報に対する責任について考え行動しようとする態度 ・情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与しようとする態度

（参考）高等学校卒業までに全ての生徒に育成を目指す情報に関わる資質・能力 ※総則・評価特別部会第4回（平成28年1月18日）資料における整理

<p>知識・技能</p>	<p>思考力・判断力・表現力等</p>	<p>学びに向かう力・人間性等</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・（思考や創造等に活用される基礎的な情報としての）教科等の学習を通じて身に付ける知識等 ・情報を活用して問題を発見・解決したり考えを形成したりする過程や方法についての理解 ・問題の発見・解決等の過程において活用される情報手段（コンピュータなど）の特性についての理解とその操作に関する技能 ・アナログ情報とデジタル情報の違い（Webサイトと新聞や書籍等により得られる情報の早さや確かさの違い）など、情報の特性の理解 ・コンピュータの構成や情報セキュリティなど、情報手段の仕組みの理解 ・社会の情報化と情報が社会生活の中で果たしている役割や及ぼしている影響の理解 ・情報に関する法・制度やマナーの意義についての理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を活用して問題を発見・解決し新たな価値を創造したり、自らの考えの形成や人間関係の形成等を行ったりする能力 - 目的に応じて必要な情報を収集・選択したり、複数の情報を基に判断したりする能力 - 情報を活用して問題を発見し、解法を比較・選択し、他者とも協働したりしながら解決のための計画を立てて実行し、結果に基づき新たな問題を発見する等の能力 - 相手の状況に応じて情報を的確に発信したり、発信者の意図を理解したり、考えを伝え合い発展させたりする能力 ・問題の発見・解決や考えの形成等の過程において情報手段を活用する能力 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を多角的・多面的に吟味しその価値を見極めていこうとする情意や態度等 ・自らの情報活用を振り返り、評価し改善しようとする情意や態度等 ・情報モラルや情報に対する責任について考え行動しようとする情意や態度等 ・情報や情報技術を積極かつ適切に活用して情報社会（情報の果たす役割が一層重要になっていく社会）に主体的に参画し、より望ましい社会を構築していこうとする情意や態度等

<p>高等学校卒業までに全ての生徒に育成を目指す情報に関わる資質・能力※</p>	<p>知識・技能 (何を知っているか、何ができるか)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(思考や創造等に活用される基礎的な情報としての)教科等の学習を通じて身に付ける知識等 ・情報を利用して問題を発見・解決したり考えを形成したりする過程や方法についての理解 ・問題の発見・解決等の過程において活用される情報手段(コンピュータなど)の特性についての理解とその操作に関する技能 ・アナログ情報とデジタル情報の違い(Webサイトと新聞や書籍等により得られる情報の早さや確かさの違い)など、情報の特性の理解 ・コンピュータの構成や情報セキュリティなど、情報手段の仕組みの理解 ・社会の情報化と情報が社会生活の中で果たしている役割や及ぼしている影響の理解 ・情報に関する法・制度やマナーの意義についての理解 	<p>272 思考力・判断力・表現力等 (知っていることと、できることをどう使うか)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報を利用して問題を発見・解決し新たな価値を創造したり、自らの考えの形成や人間関係の形成等を行ったりする能力 ・一目的に応じた必要な情報を収集・選択したり、複数の情報を基に判断したりする能力 ・一情報を活用して問題を発見し、解法を比較・選択し、他者とも協働したりしながら解決のための計画を立てて実行し、結果に基づき新たな問題を発見する等の能力 ・一相手の状況に応じて情報を的確に発信したり、発信者の意図を理解したり、考えを伝え合い発展させたりする能力など ・問題の発見・解決や考えの形成等の過程において情報手段を活用する能力 	<p>学びに向かう力・人間性等 (どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報を多角的・多面的に吟味しその価値を見極めていることとする情意や態度等 ・自らの情報活用を振り返り、評価し改善しようとする情意や態度等 ・情報モラルや情報に対する責任について考え行動しようとする情意や態度等 ・情報や情報技術を積極的かつ適切に活用して情報社会(情報の果たす役割が一層重要になっていく社会)に主体的に参画し、より望ましい社会を構築していくこととする情意や態度等
--	--	--	--

「情報科」

◎情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通じて、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を育成することを旨とする

○①情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決する方法について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人間との関わりについての理解を深めるようにする

②問題の発見・解決に向けて情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う

③情報を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与しようとする態度を養う

【高等学校】(各教科等)

◎情報社会への主体的な参画に向けて、問題を発見・解決したり自らの考えを形成したりする過程や、情報手段等についての知識と経験を、科学的な知として体系化していくようにするなど、発達段階に応じた資質・能力を高等学校教育の本質的な学びを深める中で身に付ける

(技術・家庭科「情報に関する技術」)

計測・制御やコンテンツに関するプログラミングなど、デジタル情報の活用と情報技術を中心的に扱う

【中学校】(各教科等)

◎情報を効果的に活用して問題を発見・解決したり、自らの考えを形成したりする経験や、その過程で情報手段を活用する経験を重ねつつ、抽象的な分析等も行えるようにするなど、発達段階に応じた資質・能力を中学校教育の本質的な学びを深める中で身に付ける

【小学校】(各教科等)

◎様々な問題の発見・解決の学習を経験しながら、そこに情報や情報手段が活用されていることや、身近な生活と社会の情報化との関係等を学び、情報や情報手段によさや課題があることに気付くとともに、情報手段の基本的な操作ができるようになるなど、発達段階に応じた資質・能力を小学校教育の本質的な学びを深める中で身に付ける

【幼稚園】

幼児教育において培われる基礎(言葉による伝え合い、豊かな感性と表現等)

※総則「評価特別部会第4回(平成28年1月18日)資料」における整理

情報科の学習過程のイメージ(案)

問題発見・解決の
プロセス

問題の発見

社会等の事象の
中からの問題の
発見

既知の手法の適用
又は新たな手法の
習得・活用
・モデル化
・統計的手法 等

問題の定義
解決の方向性の決定

情報の収集・分
析による問題の
明確化
解決の方向性の
決定

情報や情報技術等に関する知識の習得

解決方法の探索
計画の立案

合理的判断に基
づく解決方法の
選択
手順の策定や基
本設計

情報技術の適
用・実行

・プログラムの作成・
実行
・シミュレーションの
実行
・情報デザインの適
用 等

結果の予測
計画の実行

評価・改善

社会等の問題に適
用して有効に機能す
るか等についての検
討

振り返り

次の
問題解決へ

※必ずしも一方通行の
流れではない
※「社会等」＝社会、産
業、生活、自然等

次の問題解決
又は現実の問題
への適用

社会等の問題の把握

抽象化された「情報」の「情報技術」による取扱い

社会等の問題への適用

ICTの効果的な活
用場面と活用方法

インターネット等を活
用した調査活動

協働での意見の整理

プログラムや作品の(協働)制作、
シミュレーション、データの分析

結果の統計的分析

記録の活用
(自らの学びの振り返り)

知識・技能

思考・判断・
表現

主体的に学習に
取り組む態度

主に個別の知識の習得

主に活用を通じた知識の概念化、
情報技術を活用する技能の習得

事象を情報とその結び付きの視点から捉える力

問題の解決に向けて情報技術を適切かつ効果
的に活用する力

見通しを持って問題を解決しようとする意欲

学んだことを生かし情
報社会に参画・寄与し
ようとする態度

留意すべき点

- ✓ 各プロセス及び各プロセスとICT活用例や評価場面との対応は例示であり、上例に限定されるものではないこと
- ✓ 学習活動のつながりと学びの広がり(深い学び、対話的な学び、主体的な学び)を意図した、単元の構成の工夫等が望まれること

情報科新科目のイメージ (案)

「情報Ⅰ (仮称)」 (情報と情報技術を問題の発見と解決に活用するための科学的な考え方等を育成する共通必修科目)

問題の発見・解決に向けて、事象を情報とその結び付きの視点から捉え、情報技術を適切かつ効果的に活用する力を育む科目

(項目の構成案)

(1) 情報社会の問題解決	中学校までに経験した問題解決の手法や情報モラルなどを振り返り、これを情報社会の問題の発見と解決に適用して、情報社会への参画について考える。
(2) コミュニケーションと情報デザイン	情報デザインに配慮した的確なコミュニケーションの力を育む。
(3) コンピュータとプログラミング	プログラミングによりコンピュータを活用する力、事象をモデル化して問題を発見したりコミュニケーションを通してモデルを評価したりする力を育む。
(4) 情報通信ネットワークとデータの利用	情報通信ネットワークを用いてデータを活用する力を育む。

「情報Ⅱ (仮称)」 (発展的な内容の選択科目)

「情報Ⅰ (仮称)」において培った基礎の上に、問題の発見・解決に向けて、情報システムや多様なデータを適切かつ効果的に活用し、あるいは情報コンテンツを創造する力を育む科目

(項目の構成案)

(1) 情報社会の進展と情報技術	情報社会の進展と情報技術との関係について歴史的に捉え、AI等の技術も含め将来を展望する。
(2) コミュニケーションと情報コンテンツ	画像や音、動画を含む情報コンテンツを用いた豊かなコミュニケーションの力を育む。
(3) 情報とデータサイエンス	データサイエンスの手法を活用して情報を精査する力を育む。
(4) 情報システムとプログラミング	情報システムを活用するためのプログラミングの力を育む。
○ 課題研究	情報Ⅰ (仮称)及び情報Ⅱ (仮称)の(1)～(4)における学習を総合し深化させ、問題の発見・解決に取り組み、新たな価値を創造する。

情報科各科目の項目構成の考え方

項目(1)

- ・情報社会との関わりについて考える
- ・問題の発見・解決に情報技術を活用することの有用性について考える

※項目(2)～(4)の導入として位置付ける

項目(2)～(4)

- ・コンピュータや情報システムの基本的な仕組みと活用に関する内容、コミュニケーションのための情報技術の活用に関する内容、データを活用するための情報技術の活用に関する内容を構成する

①(各項目に応じた)情報、情報技術や問題解決の手法等を理解する

②問題の発見・解決に情報技術を活用するとともに、自らの情報活用を評価・改善する

※②においては、①において習得した知識の概念化を図るほか、問題の発見・解決に情報技術を活用する能力の向上、情報社会に参画する態度の育成を図る

※主として②において、情報科における「見方・考え方」を働かせるとともに成長させる

※必ずしも①、②の順に学習するものではなく、「情報科の学習過程のイメージ(案)」に示すように、学びのつながりと広がりを意識して、情報や情報技術等に関する知識の習得と、それらの知識の問題発見・解決への活用を並行して行うことも考えられる

(14) 主として専門学科において開設される各教科・科目

(ア) 職業に関する各教科・科目

① 現行学習指導要領の成果と課題を踏まえた産業教育の目標の在り方

i) 現行学習指導要領の成果と課題

- 農業、工業、商業、水産、家庭、看護、情報、福祉からなる職業に関する各教科（以下「職業に関する各教科」という。）においては、各教科の指導を通して、関連する職業に従事する上で必要な資質・能力を育み、社会や産業を支える人材を輩出してきたが、科学技術の進展、グローバル化、産業構造の変化等に伴い、必要とされる専門的な知識・技術も変化するとともに高度化しているため、これらへの対応が課題となっている。
- また、職業に関する各教科においては、専門的な知識・技術の定着を図るとともに、多様な課題に対応できる課題解決能力を育成することが重要であり、地域や産業界との連携のもと、産業現場等における長期間の実習等の実践的な学習活動をより一層充実させていくことが求められている。あわせて、職業学科に学んだ生徒の進路が多様であることから、大学等との接続についても重要な課題となっている。

ii) 課題を踏まえた産業教育の目標の在り方

- このような中、産業教育全体の目標の考え方については、産業界で必要とされる資質・能力を見据えて、三つの柱に沿って次のように整理した。（別添15-1、別添15-2を参照）

職業に関する各教科の「見方・考え方」を働かせた実践的・体験的な学習活動を通して、社会を支え産業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

 - ① 各職業分野について（社会的意義や役割を含め）体系的・系統的に理解させるとともに、関連する技術を習得させる。
 - ② 各職業分野に関する課題（持続可能な社会の構築、グローバル化・少子高齢化への対応等）を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する力を育成する。
 - ③ 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を育成する。
- これらを構成する要素のうち、例えば、「倫理観」や「合理的」等は、従来から学習指導要領において明示してきた重要な要素である。一方で、「職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学ぶ」、「社会貢献」、「協働的に取り組む」は、社会や産業における新たな課題の解決に向けて多くの人と協力して挑

戦し粘り強く学び続けることや、広い視野でよりよい社会の構築に取り組むことが重要であることから明示した。

iii) 産業教育における「見方・考え方」

- また、産業教育の特質に応じ育まれる「見方・考え方」については、教科ならではの視点や思考の枠組みであり、三つの柱で整理していく資質・能力を育むため、各教科に関連する職業を踏まえて検討を行った。

その結果、職業に関する各教科の本質に根ざした視点から社会や産業の課題を捉え、人々の健康の保持増進や快適な生活の実現、社会の発展に寄与する生産物や製品、サービスの工夫・創造に向けて考えることなどに整理した。（別添15-3を参照）

- 各教科の目標や「見方・考え方」については、前述の産業教育全体の目標の考え方や「見方・考え方」を踏まえ、各産業の特質に応じて整理することが必要である。

②具体的な改善事項

i) 教育課程の示し方の改善

ア 資質・能力を育成する学びの過程についての考え方

- 前述の三つの柱に沿った資質・能力を育成するためには、産業教育において従前から実施されている具体的な課題を踏まえた課題解決的な学習の充実が求められる。
- このような学習については、解決すべき職業に関する課題を把握する「課題の発見」、関係する情報を収集して予想し仮説を立てる「課題解決の方向性の検討」、「計画の立案」、計画に基づき解決策を実践する「計画の実施」、結果を基に計画を検証する「振り返り」、といった過程に整理した。この過程においては、例えば、「課題の発見」では、学びに向かう力や人間性として、よりよい社会の構築に向け課題を発見しようとする態度が、「計画の実施」では、思考力・判断力・表現力として、専門的な知識・技術を活用する力が育まれることが想定される。（別添15-4を参照）
- ここで整理した過程はあくまでも例示であり、各過程を行き来して学習活動が行われるものであることに留意する必要があるが、これらの過程において、先述した三つの柱に基づき整理した資質・能力の育成を図ることができる。

イ 科目構成の構造

- 今回の改訂においては、産業教育で育成する資質・能力を踏まえ、各教科で指導すべき共通の内容を整理し、これを各教科共通の基礎的・基本的な内容として各教科の原則履修科目などの基礎的科目において扱うことが求められる。
- また、産業教育に関する各教科の科目構成については、基礎的科目において各教科に関する基礎的・基本的な内容を理解させ、それを基盤として専門的な学習につなげ、更

に「課題研究」等で専門的な知識・技術の深化、総合化を図るという現行の考え方を継続し、改訂を進めることが必要である。

ii) 教育内容の改善・充実

○ 今回の改訂においては、前述のような資質・能力の育成を前提に、社会や産業の変化の状況等や学校における指導の実情を踏まえて、持続可能な社会の構築、情報化の一層の進展、グローバル化などへの対応についての視点から改善を図ることが求められる。また、こうした社会や産業の変化の状況等に対応する観点からも、経営等に関する指導についてはより重要となっており、例えば、農林水産業などの各産業においては、経営感覚に優れた次世代の人材の育成に向けた指導の充実などが求められる。

○ 資質・能力の育成に向けた職業に関する各教科の教育内容については、次の方向で改善・充実を図る。

(農業)

○ 安定的な食料生産の必要性や農業のグローバル化への対応など農業を取り巻く社会的環境の変化を踏まえ、農業や農業関連産業を通して、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人を育成するため、次のような改善・充実を図る。

- ・現在の「農業経営、食品産業分野」と「バイオテクノロジー分野」を再構造化し、バイオテクノロジーを含む「農業生産や農業経営の分野」と「食品製造や食品流通の分野」に整理
- ・農業の各分野において、持続可能で多様な環境に対応した学習の充実
- ・農業経営のグローバル化や法人化、6次産業化や企業参入等に対応した経営感覚の醸成を図るための学習の充実
- ・安全・安心な食料の持続的な生産と供給に対応した学習の一層の充実
- ・農業の技術革新と高度化等に対応した学習の充実
- ・農業の持つ多面的な特質を学習内容とした地域資源に関する学習の充実

(工業)

○ 安全・安心な社会の構築、職業人としての倫理観、環境保全やエネルギーの有効な活用、産業のグローバル競争の激化、情報技術の技術革新の開発が加速することなどを踏まえ、ものづくりを通して、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人を育成するため、次のような改善・充実を図る。

- ・工業の各分野で横断的に履修する科目について、知識や技術及び技能の活用に関する学習の充実
- ・技術の高度化や情報技術の発展等への対応に関する学習の充実
- ・環境問題や省エネルギーに対応した学習の充実
- ・グローバルな視点を取り入れた学習の充実
- ・電子機械に関わる知識と技術の活用に関する学習の充実

- ・組み込み技術について知識と技術の一体的な習得を図る学習の充実
- ・耐震技術やユニバーサルデザイン等の知識と技術に関する学習の充実

(商業)

- 経済のグローバル化、ICTの進歩、観光立国の流れなどを踏まえ、ビジネスを通して、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人を育成するため、次のような改善・充実を図る。
 - ・観光に関する知識と技術を習得させ、観光の振興に取り組む態度を育成する学習の一層の充実
 - ・ビジネスにおけるコミュニケーションに関する学習の充実
 - ・マーケティングと広告・販売促進に関する知識と技術の一体的な習得
 - ・ビジネスに関わるマネジメントに関する学習の充実
 - ・経済のグローバル化に関する学習の充実
 - ・情報通信ネットワークを活用したビジネスに関する学習の充実
 - ・プログラミングとシステム開発に関する知識と技術の一体的な習得
 - ・情報通信ネットワークの構築・運用管理とセキュリティに関する学習の重点化

(水産)

- 水産物の世界的な需要の変化や資源管理、持続可能な海洋利用など水産や海洋を取り巻く状況の変化を踏まえ、水産業や海洋関連産業を通して、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人を育成するため、次のような改善・充実を図る。
 - ・海面の多様な利用を踏まえ、海洋環境基準及び環境保全等に対応した学習の充実
 - ・水産や海洋に関連する機器や流通等の技術革新に対応した学習の充実
 - ・船舶や企業内における情報セキュリティや、食品の安全に関わる産業としての危機管理に関する学習の充実
 - ・水産物・水産加工品の品質管理・衛生管理に関する学習の充実
 - ・漁業、水産加工業における基礎的・基本的な経営に関する学習の充実
 - ・漁船をはじめとした船員養成の国際基準等に対応した学習の充実

(家庭)

- 少子高齢化、食育の推進や専門性の高い調理師養成、価値観やライフスタイルの多様化、複雑化する消費生活等への対応などを踏まえ、生活産業を通して、地域や社会の生活の質の向上を担う職業人を育成するため、次のような改善・充実を図る。
 - ・調理師法施行令、調理師法施行規則の改正（平成27年4月1日施行）に伴う科目の再編成
 - ・食育の推進等、食に関する学習の充実
 - ・子供の発達や地域の子育て支援に関する学習の充実
 - ・高齢期の衣食住生活の質の向上を図る学習の充実

- ・複雑化する経済社会や消費生活の理解に関する学習の充実
- ・生活文化の伝承・創造に関する学習の充実
- ・職業人としてのマネジメント能力の育成に関する学習の充実

(看護)

- 少子高齢化の進行、入院期間の短縮、在宅医療の拡大などを踏まえ、看護を通して、地域や社会の保健医療福祉を支え、人々の健康の保持増進に寄与する職業人を育成するため、次のような改善・充実を図る。
 - ・多職種と連携・協働し、多様な生活の場にいる人々の看護について、専門性の高い実践力を養う学習の充実
 - ・医療安全に関する学習の充実
 - ・各領域における倫理的課題に関する学習の充実

(情報)

- 知識基盤社会の到来、情報社会の進展、高度な情報技術を持つIT人材の需要増大などを踏まえ、情報関連産業を通して、地域産業をはじめ情報社会の健全で持続的な発展を担う職業人を育成するため、次のような改善・充実を図る。
 - ・情報セキュリティに関する知識と技術を習得させ、情報の安全を担う能力と態度を育成する学習の一層の充実
 - ・情報コンテンツを利用した様々なサービスや関連する社会制度についての知識や技術を習得させ、実際に活用する能力と態度を育成する学習の一層の充実
 - ・システム的设计・管理と情報コンテンツの制作・発信に関する実践力の一体的な習得
 - ・情報メディアと情報デザインに関する知識と技術の一体的な習得
 - ・問題解決やプログラミングに関する学習の充実
 - ・統計的手法の活用やデータの分析、活用、表現に関する学習の充実
 - ・データベースの応用技術に関する学習の充実
 - ・ネットワークの設計、構築、運用管理、セキュリティに関する学習の充実
 - ・コンピュータグラフィックや情報コンテンツの制作に関する学習の充実

(福祉)

- 福祉ニーズの高度化と多様化、倫理的課題やマネジメント能力・多職種協働の推進、ICT・介護ロボットの進歩などを踏まえ、福祉を通して、人間の尊厳に基づく地域福祉の推進と持続可能な福祉社会の発展を担う職業人を育成するため、次のような改善・充実を図る。
 - ・医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な学習の追加
 - ・福祉従事者に求められるマネジメント能力に関する学習の追加
 - ・福祉従事者に必要な倫理に関する学習の充実
 - ・福祉実践における多職種協働に関する学習の充実
 - ・福祉用具や介護ロボット等を含む福祉機器に関する学習の充実

iii) 学習・指導の改善充実や教育環境の充実等

ア 「主体的・対話的で深い学び」の実現

- 産業教育においては、企業等と連携した商品開発、地域での販売実習、高度熟練技能者による指導など、地域や産業界等と連携した実験・実習などの実践的、体験的な学習活動を重視してきた。
- 社会や産業の具体的な課題に取り組むに当たっては、各教科で育まれる「見方・考え方」を働かせ、よりよい製品の製造やサービスの創造等を目指すといった「深い学び」につなげていくことが重要である。「深い学び」を実現する上では、課題の解決を図る学習や臨床の場で実践を行う「課題研究」等の果たす役割が大きい。

また、産業界関係者等との対話、生徒同士の協議等は、自らの考えを広げ深める「対話的な学び」に、企業等での高度な技術等に触れる体験は、キャリア形成を見据えて生徒の学ぶ意欲を高める「主体的な学び」につながるものである。これらの学びを実現するためには、地域や産業界等との連携が今後とも重要である。

- 産業教育においては、今後とも地域や産業界等と連携した実験・実習などの実践的、体験的な学習活動を充実し、アクティブ・ラーニングの三つの視点から、これらの学習活動を再確認しながら、不断の授業改善に取り組むことが求められる。

イ 教育環境の充実

(産業界等との連携)

- 地域や産業界等と連携した実験・実習などの実践的、体験的な学習活動は、アクティブ・ラーニングの三つの視点を踏まえた学びを実現する上でも重要なものであることから、地域や産業界等との連携がより一層求められる。このような連携を促進するためには、各地域の産業教育振興会等と協力して、定期的に学校と産業界等が情報交換を行うとともに、教育委員会、地方公共団体の関係部局、経済団体等が協力し、インターンシップの受入や外部講師の派遣の調整を行うなどといった取組も期待される。

また、② i) イで述べた職業に関する各教科で指導すべき共通の内容については、より充実した指導を行うため、例えば、関係の団体に働きかけ、校長会等の協力を得ながら副教材を作成することなど、各学校の取組を支援することが期待される。

(中学校や大学等との接続)

- 研修を通じて中学校の教員が職業の多様性や専門高校について理解を深めることや、産業教育フェア等の取組によって、中学生の主体的な進路選択に資するよう、専門高校での学習に対する理解・関心を高めることも求められる。
- 現在実施されている大学入学者選抜は、共通教科を中心としていることが多いため、アドミッション・ポリシー等に応じ、専門高校での学びを積極的に評価できる入学者選

抜の実施の拡大が望まれる。また、農業大学校や職業能力開発大学校などの省庁系大学校等との連携・協力の促進等も求められる。

(教員研修等の充実)

- 教員の資質・能力を向上させるための研修の機会等の充実、大学が教育委員会等と連携した教員養成課程の充実、実務経験が豊富な社会人の活用が求められる。

(実験・実習の環境整備)

- 計画的な施設・設備の改善・充実・更新、生産や販売実習等の学習活動を円滑に実施するための地方公共団体における関係する財務規則等の整理などの環境整備が求められる。

(イ) その他の専門教育に関する各教科・科目

- 職業以外の専門教育に関する各教科・科目についても、専門分野ごとに求められる資質・能力を、関係団体等との間で共有化しつつ、三つの柱を踏まえて各教科・科目の位置付けを明確化し、目標を示すこととする。
- また、専門教育を主とする学科の特色が一層生かされ、一人一人の生徒の進路に応じた多様な可能性を伸ばすために、より高度で専門的な学習ができる科目構成に見直すなどの改善を行う。
- 具体的には、例えば、専門教科「英語」においては、高度な発表、討論・議論、交渉等ができる総合的なコミュニケーションの力を高める学習の充実を図る観点から、「ディベート&ディスカッションⅠ・Ⅱ（仮称）」を設けるなどの改善を行う。

また、前述（５）のとおり、各学科に共通する教科として「理数」を設定し、科目として「理数探究基礎（仮称）」及び「理数探究（仮称）」を位置付けることとしており、専門教科「理数」における「課題研究」については廃止する。

（高等学校専攻科）

※高等学校若しくはこれに準ずる学校等を卒業した者等に対して、精深な程度において、特別の事項を教授し、その研究を指導することを目的として設置される課程（修業年限1年以上）。

【高等学校】

（産業教育）

- ◎ 職業に関する各教科の見方・考え方を働かせた実践的・体験的な学習活動を通して、社会を支え産業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。
- ① 各職業分野について（社会的意義や役割を含め）体系的・系統的に理解させるとともに、関連する技術を習得させる。
- ② 各職業分野に関する課題（持続可能な社会の構築、グローバル化・少子高齢化への対応等）を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する力を育成する。
- ③ 職業人として必要な豊かな人間性を育み、より良い社会の構築を目指して自ら学び、産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を育成する。

（共通教科）

- 家庭や個人の生活及び社会の課題の解決に必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力等、態度等の育成。
- 職業において共通に必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力等、態度等の育成。

【義務教育】

- 家庭や個人の生活及び社会の課題の解決に必要な基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力・表現力等、態度等の育成。
- 職業において共通に必要な基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力・表現力等、態度等の育成。

職業に関する各教科において育成を目指す資質・能力の整理（案）

別添15-2

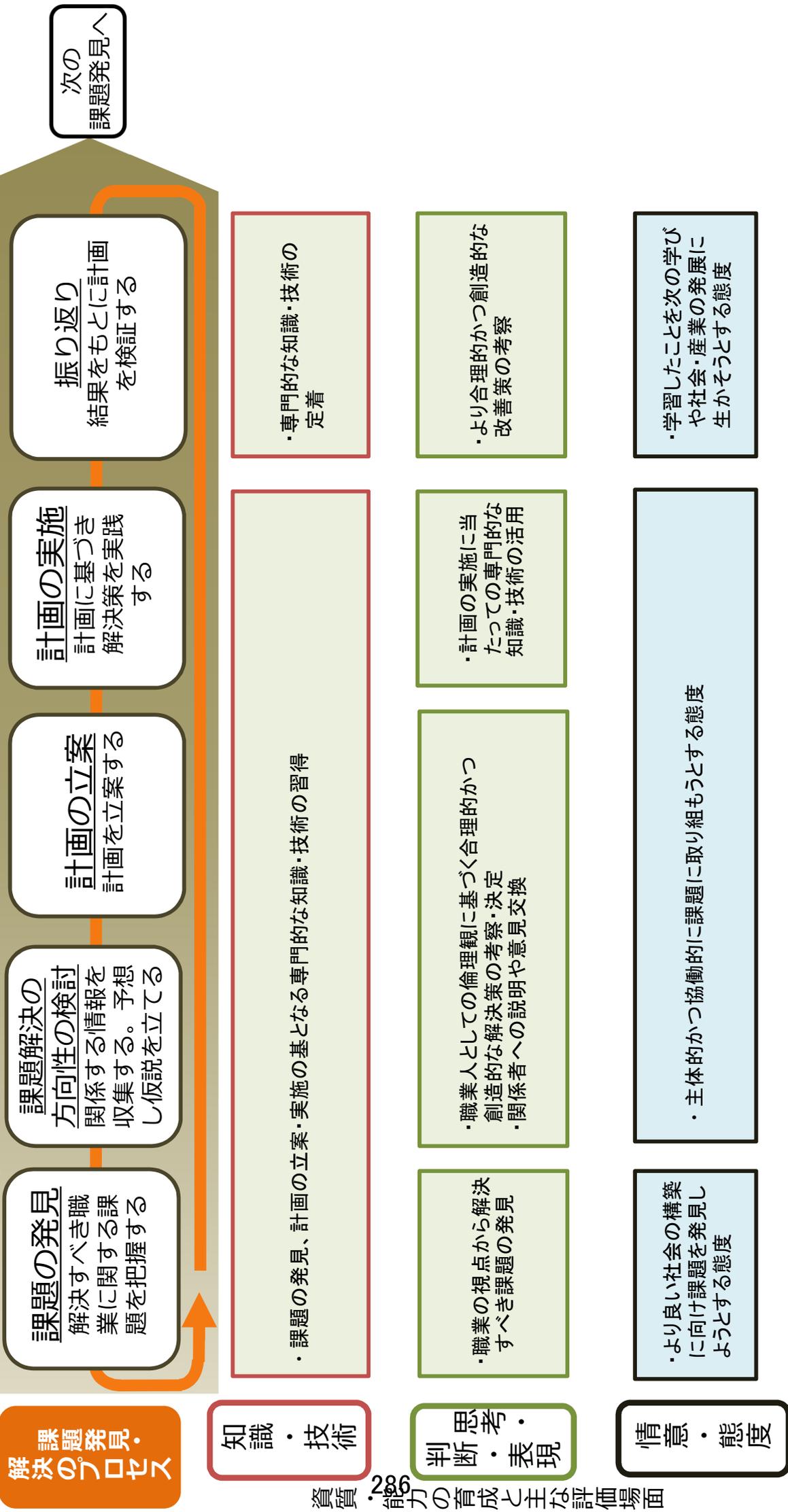
	知識・技術	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
産業教育 全体	<ul style="list-style-type: none"> 各職業分野について（社会的意義や役割を含めて）の体系的・系統的な理解 関連する技術の習得 	<ul style="list-style-type: none"> 各職業分野に関する課題（持続可能な社会の構築、グローバル化・少子高齢化への対応等）を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する力 	<ul style="list-style-type: none"> 職業人として必要な豊かな人間性 より良い社会の構築を目指して自ら学び、産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度
農業	<ul style="list-style-type: none"> 農業の各分野について（社会的意義や役割を含めて）の体系的・系統的な理解 関連する技術の習得 	<ul style="list-style-type: none"> 農業に関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する力 	<ul style="list-style-type: none"> 職業人として必要な豊かな人間性 より良い社会の構築を目指して自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度
工業	<ul style="list-style-type: none"> 工業の各分野について（社会的意義や役割を含めて）の体系的・系統的な理解 関連する技術の習得 	<ul style="list-style-type: none"> 工業に関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する力 	<ul style="list-style-type: none"> 職業人として必要な豊かな人間性 より良い社会の構築を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度
商業	<ul style="list-style-type: none"> 商業の各分野について（社会的意義や役割を含めて）の体系的・系統的な理解 関連する技術の習得 	<ul style="list-style-type: none"> ビジネスに関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する力 	<ul style="list-style-type: none"> 職業人として必要な豊かな人間性 より良い社会の構築を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度
水産	<ul style="list-style-type: none"> 水産や海洋の各分野について（社会的意義や役割を含めて）の体系的・系統的な理解 関連する技術の習得 	<ul style="list-style-type: none"> 水産や海洋に関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもつて合理的かつ創造的に解決する力 	<ul style="list-style-type: none"> 職業人として必要な豊かな人間性 より良い社会の構築を目指して自ら学び、水産業及び海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 生活産業について（社会的意義や役割を含めて）の体系的・系統的な理解 関連する技術の習得 	<ul style="list-style-type: none"> 生活産業に関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもつて合理的かつ創造的に解決する力 	<ul style="list-style-type: none"> 職業人として必要な豊かな人間性 より良い社会の構築を目指して自ら学び、生活産業に関わる地域の産業や生活の質の向上を目指して主体的かつ協働的に取り組む態度
看護	<ul style="list-style-type: none"> 看護について（社会的意義や役割を含めて）の体系的・系統的な理解 関連する技術の習得 	<ul style="list-style-type: none"> 看護に関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する力 	<ul style="list-style-type: none"> 職業人として必要な豊かな人間性 より良い社会の構築を目指して自ら学び、人々の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組む態度
情報	<ul style="list-style-type: none"> 情報の各分野について（社会的意義や役割を含めて）の体系的・系統的な理解 関連する技術の習得 	<ul style="list-style-type: none"> 情報に関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する力 	<ul style="list-style-type: none"> 職業人として必要な豊かな人間性 より良い社会の構築を目指して自ら学び、情報産業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度
福祉	<ul style="list-style-type: none"> 福祉の各分野について（社会的意義や役割を含めて）の体系的・系統的な理解 関連する技術の習得 	<ul style="list-style-type: none"> 福祉に関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する力 	<ul style="list-style-type: none"> 職業人として必要な豊かな人間性 より良い社会の構築を目指して自ら学び、広い視野をもつて地域福祉の課題と向き合い、主体的かつ協働的に取り組む態度

職業に関する各教科の目標（案）

産業教育全体	<p>◎職業に関する各教科の見方・考え方を働かせた実践的・体験的な学習活動を通して、社会を支え産業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。</p> <ol style="list-style-type: none">各職業分野について(社会的意義や役割を含め)体系的・系統的に理解させるとともに、関連する技術を習得させる。各職業分野に関する課題(持続可能な社会の構築、グローバル化・少子高齢化への対応等)を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する力を育成する。職業人として必要な豊かな人間性を育み、より良い社会の構築を目指して自ら学び、産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を育成する。
農業	<p>◎農業の見方・考え方を働かせた実践的・体験的な学習活動を通して、農業や農業関連産業を通じて、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。</p> <ol style="list-style-type: none">農業の各分野について(社会的意義や役割を含め)体系的・系統的に理解させるとともに、関連する技術を習得させる。農業に関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する力を育成する。職業人として必要な豊かな人間性を育み、より良い社会の構築を目指して自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を育成する。
工業	<p>◎工業の見方・考え方を働かせた実践的・体験的な学習活動を通して、ものづくりを通じ、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。</p> <ol style="list-style-type: none">工業の各分野について(社会的意義や役割を含め)体系的・系統的に理解させるとともに、関連する技術を習得させる。工業に関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する力を育成する。職業人として必要な豊かな人間性を育み、より良い社会の構築を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を育成する。
商業	<p>◎商業の見方・考え方を働かせた実践的・体験的な学習活動を通して、ビジネスを通じて、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。</p> <ol style="list-style-type: none">商業の各分野について(社会的意義や役割を含め)体系的・系統的に理解させるとともに、関連する技術を習得させる。ビジネスに関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する力を育成する。職業人として必要な豊かな人間性を育み、より良い社会の構築を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を育成する。
水産	<p>◎水産の見方・考え方を働かせた実践的・体験的な学習活動を通して、水産業や海洋関連産業を通じて、水産業や海洋関連産業の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。</p> <ol style="list-style-type: none">水産や海洋の各分野について(社会的意義や役割を含め)体系的・系統的に理解させるとともに、関連する技術を習得させる。水産や海洋に関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する力を育成する。職業人として必要な豊かな人間性を育み、より良い社会の構築を目指して自ら学び、水産業及び海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を育成する。
家庭	<p>◎生活産業の見方・考え方を働かせた実践的・体験的な学習活動を通して、生活産業を通じて、地域や社会の生活の質の向上を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。</p> <ol style="list-style-type: none">生活産業について(社会的意義や役割を含め)体系的・系統的に理解させるとともに、関連する技術を習得させる。生活産業に関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する力を育成する。職業人として必要な豊かな人間性を育み、より良い社会の構築を目指して自ら学び、生活産業に関わる地域の産業や生活の質の向上を目指して主体的かつ協働的に取り組む態度を育成する。
看護	<p>◎看護の見方・考え方を働かせた実践的・体験的な学習活動を通して、看護を通じて、地域や社会の保健医療福祉を支え、人々の健康の保持増進に寄与する職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。</p> <ol style="list-style-type: none">看護について(社会的意義や役割を含め)体系的・系統的に理解させるとともに、関連する技術を習得させる。看護に関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する力を育成する。職業人として必要な豊かな人間性を育み、より良い社会の構築を目指して自ら学び、人々の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組む態度を育成する。
情報	<p>◎情報の見方・考え方を働かせた実践的・体験的な学習活動を通して、情報関連産業を通じて、地域産業をはじめ情報社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。</p> <ol style="list-style-type: none">情報の各分野について(社会的意義や役割を含め)体系的・系統的に理解させるとともに、関連する技術を習得させる。情報に関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する力を育成する。職業人として必要な豊かな人間性を育み、より良い社会の構築を目指して自ら学び、情報産業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を育成する。
福祉	<p>◎福祉の見方・考え方を働かせた実践的・体験的な学習活動を通して、福祉を通じて、人間の尊厳に基づき地域福祉の推進と持続可能な福祉社会の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。</p> <ol style="list-style-type: none">福祉の各分野について(社会的意義や役割を含め)体系的・系統的に理解させるとともに、関連する技術を習得させる。福祉に関する課題を発見し、職業人としての倫理観をもって合理的かつ創造的に解決する力を育成する。職業人として必要な豊かな人間性を育み、より良い社会の構築を目指して自ら学び、広い視野をもって地域福祉の課題と向き合い、主体的かつ協働的に取り組む態度を育成する。

<p>産業教育 全体</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職業に関する各教科の本質に根ざした視点から社会や産業の課題を捉え、人々の健康の保持増進や快適な生活の実現、社会の発展に寄与する生産物や製品、サービスの工夫・創造に向けて考えること
<p>農業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・農産物の生産や農業経営の視点から農業や関連産業を捉え、生産性及び品質向上や経営発展に向けて考えること ・農産物の加工や食品流通の視点から農業や関連産業を捉え、生産性及び品質向上や経営発展に向けて考えること ・農地や森林の保全、環境修復・再生の視点から農業や関連産業を捉え、地域の環境創造に向けて考えること ・農業生物や地域資源の活用視点から農業や関連産業を捉え、地域創造と生活の質的向上に向けて考えること
<p>工業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・安全で安心な製品を提供する視点からものづくりを捉え、新たな次代を切り拓く付加価値の高い創造的な製品の開発を目指す、製造現場における合理的なものづくりの方策の活用に向けて考えること ・工業の各分野で情報化が図られている視点からものづくりを捉え、ものづくりの発展を目指す情報技術の有効な活用に向けて考えること ・持続可能な社会の構築の視点からものづくりを捉え、ものづくりの発展を目指して、資源・エネルギーの有効活用、環境保全に向けて考えること
<p>商業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・マーケティングの視点から企業活動を捉え、顧客満足の実現と顧客の創造に向けて考えること ・マネジメントの視点から企業活動を捉え、経済社会の動向や法令等を踏まえた適切な意思決定に向けて考えること ・会計の視点から企業活動を捉え、適切な会計情報の提供及び効果的な会計情報の活用に向けて考えること ・ビジネスに関する情報の視点から企業活動を捉え、情報の適切な処理及び情報や情報通信技術の効果的な活用に向けて考えること
<p>水産</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業生産の視点から水産業や海洋関連産業を捉え、環境や資源等に配慮した安全で経済的な漁業や船舶運航の実現に向けて考えること ・船舶や海洋関連機器などの海洋工学の視点から水産業や海洋関連産業を捉え、環境に配慮した安全で経済的なマリネンジニアリングの実現に向けて考えること ・海上における情報通信の視点から水産業や海洋関連産業を捉え、セキュリティを考慮した円滑な通信業務の実現に向けて考えること ・栽培漁業などの生物生産の視点から水産業や海洋関連産業を捉え、生態系や環境に配慮した安全で経済的な養殖業の実現に向けて考えること ・水産食品の製造や流通の視点から水産業や海洋関連産業を捉え、品質管理・衛生管理を考慮した安全で経済的な水産食品の持続的な供給に向けて考えること
<p>家庭</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生活を豊かに支える視点から、衣食住、ヒューマンサービス等に係る生活産業等を捉え、協力・協働・健康・快適・安全な生活の創造、生活文化の伝承・創造、持続可能な社会の構築に向けて考えること
<p>看護</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・看護の視点から健康に関わる問題を捉え、人々の健康の保持増進及び疾患や治療の影響を受ける生活の質の向上について、当事者の考えや状況を踏まえて考えること
<p>情報</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・システムの設計・管理の視点から情報産業を捉え、日常生活や社会に必要なシステムを構築することを旨として、情報セキュリティをもちつつ、情報の科学的理解に基づいた情報技術の適切な活用に向けて考えること ・情報コンテンツの制作・発信の視点から情報産業を捉え、日常生活や社会に必要なコンテンツを制作することを旨として、情報セキュリティをもちつつ、情報の科学的理解に基づいた情報技術の適切な活用に向けて考えること
<p>福祉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉の視点から生活に関わる問題を捉え、人間としての尊厳の保持と自立支援の在り方について、当事者の考えや制約を踏まえて考えること

他者への働きかけ、他者との協働、外部との相互作用



* 上記のプロセスや評価場面は例示であり、これらに限定されたり、全ての機会において評価を行ったりすることが必ずしも求められるものではない。